

大学出版

大学と社会を結ぶ 知のネットワーク

THE ASSOCIATION OF JAPANESE UNIVERSITY PRESSES

*特集 進化するアカデミック・コンテンツ

江渡浩一郎 1

「インタビュ」進化するニコニコ学会β

石戸奈々子 12

デジタルえほんと子どもの創造力

阿部卓也 17

MOOC時代をともにつくる——これからの教育の担い方

岡本真 22

アカデミック・コンテンツの過去と現在、そして未来

*連載

中垣信夫 26

命の形「形」の命 No.03

大学出版部ニュース 28

Japan
Univ
Pre
No.
201
Spr



「第1回ニコニコ研究集会(仮)」

- ・ 次回はユーザを中心とした研究
- ・ 来年2012年4月28日(土)、29日
幕張メッセで開催される「ニコニ
「第1回ニコニコ研究集会(仮)」
- ・ 本職の研究...研究者が
る場にし
- ・ 委員と
にご協力
して進
- ・ どう

No.102

2015.4

春



一般社団法人
大学出版部協会

大学出版部協会創立50周年記念シンポジウム・ブックレット

大学出版部協会 発行／東京大学出版会 発売【2014年6月刊】

2013年5月から4回にわたり開催された連続シンポジウム「新しい社会を拓く大学の力」の成果より2点をブックレットに。 日本生命財団学術書出版助成図書



座小田豊 ごこたゆたか（東北大学大学院文学研究科教授）

田中克 たなかまさる（京都大学名誉教授）

川崎一朗 かわさきいちろう（京都大学名誉教授）

防災と復興の知 3・11以後を生きる

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003150-9

列島沿岸を巨大堤防で覆う？——これまで通りの高度技術をふりかざすだけで、はたして本当に強靱な社会をつくることができるのか。哲学・生態学・地震学による対話を通して、自然と社会を千年の単位で見直し、再生のための知のあり方を探る。

〈主要目次〉

第一章「ふるさと」の根源的な力と想像力の可能性（座小田豊）／第二章 森里海の連環から震災と防災を考える（田中克）／第三章 災害社会——本当に強い社会とは（川崎一朗）／終章「ふるさと」から「ふるさと」へ（座小田豊）



中村哲之 なかむらのりゆき（東洋学園大学人間科学部専任講師）

渡辺茂 わたなべしげる（慶應義塾大学名誉教授）

開一夫 ひらきかずお（東京大学大学院総合文化研究科教授）

藤田和生 ふじたかずお（京都大学大学院文学研究科教授）

心の多様性 脳は世界をいかに捉えているか

A5判・80頁／定価（本体1,000円＋税）ISBN978-4-13-003151-6

トリ、ヒト、それぞれが視る世界は同じものではない。赤ちゃんはいつごろから自分を自分と認識するのか。心の働きの多様性を比較認知科学・発達認知科学の視点からわかりやすく解き明かす。

〈主要目次〉

第一章 トリの「視る」世界——動物の錯視と心（中村哲之）／第二章 ヒト型脳とハト型脳（渡辺茂）／第三章 脳は世界をいかに捉えているか（開一夫）／第四章 討論——心の多様性と現代（藤田和生×中村哲之・渡辺茂・開一夫）／あとがき（藤田和生）

進化するニコニコ学会β —— 江渡浩一郎先生に訊く

【解説】江渡浩一郎先生は、ニコニコ学会βの実行委員長を務められている。二〇一〇年東京大学大学院情報理工学系研究科博士課程修了。博士（情報理工学）。独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員／メディア・アーティスト。主な著書に、『パターン、Wiki、XP』、『ニコニコ学会βを研究してみた』、『進化するアカデミア』などがある。江渡先生が二〇一一年に持ち上げた「ニコニコ学会β」は、ニコニコ動画で知を配信・交流する、新たな知的コミュニティであり、そのオンライン視聴者は総計五〇万人を超える。江渡先生にニコニコ学会βのこれまでの取り組みと今後の展開について伺った。

聞き手・慶應義塾大学出版会・上村和馬

なぜニコニコ学会βを作ったのか？

——そもそも、ニコニコ学会βを起ち上げるにあたり、先生にはどのような問題意識があったのでしょうか。

僕はもともとメディア・アーティストとして出発しました。国際メディア研究財団という研究所に所属し、研究者ではあるのですが、主たる業務としてアート作品を作っていました。その後、二〇〇二年に産総研に転職し、ここで

は主たる業務として論文を書くことになりました。そこで、アート作品を作ることと論文を書くことの違いについて悩むことになりました。もちろん、論文をずっと読んでいたのですが、自分で書くとなると大違いです。研究の世界にはまったく違う原理がある。その両者のギャップに悩まされることになりました。

転機になったのは、二〇一一年三月以降です。震災の影響を経て、いくつか仕事がキャンセルされ、自分がやるべき仕事を見直さざるをえなくなりました。また、ちょうど

そのころ、ニコニコ生放送に特化したニコファールという新しいライブハウスができて、この空間を使った新しい種類のシンポジウムができないかと考えるようになりました。

アカデミック・リソース・ガイドの岡本真さんとのつながりも大きいです。二〇〇九年一二月に、東京大学松尾豊教授を中心に岡本さんらが企画した、第一回WEB学会が東大安田講堂で開催されました。毎年継続して開催する予定だったのですが、残念ながら二回目は開催されませんでした。僕は、松尾さんや岡本さんなどの中心的に活動された方々と近い関係にあり、招待講演者として登壇したこともあって、このような新しい学会を立ち上げる試みを応援していました。比較的身近な人たちが、学会をリポートする、ゼロから再設計する試みをやっていて興味深く思っていたし、もし自分がやるとすればどうするだろうかと考えていました。そのような先駆的事例があったので、その理念を継承して新たなアカデミック・シンポジウムを立ち上げる可能性を考えました。

そして、実は理想のアカデミック・シンポジウムのあり方については、ずっと考えていました。私がこれまで参加者として体験したシンポジウムで言うと、二〇〇一年一二月に外務省主催で開催された「人間の安全保障国際シンポジウム」は素晴らしいシンポジウムだったと思います。その日程と開催内容はある意味奇跡的なもので、二〇〇一年九月に全米同時多発テロがありましたね。その直後の一二月

に開催されたのですが、テーマは「テロと人間の安全保障」でした。アマルティア・センや緒方貞子さんが中心となっていて、まさしくアフガニスタンにおける人道支援がテーマとなっていました。シンポジウムはテロ以前から準備されていたはずですが、まさしくそのテロに対する人間の安全保障がテーマだったのです。事前公開されたプログラムにはありませんでしたが、当時の小泉純一郎首相や田中真紀子外相の挨拶もありました。

この時に強く思ったのは、運営のレベルの高さです。それだけハイレベルの要人や研究者が集まったシンポジウムですが、あるセッションでは一人の発表時間は七分くらい。アマルティア・センが来て、七分ですよ。一時間に七、八人発表して、かつ議論もする。とてもコンパクトにまとまっているわけです。それなのに、全ての発表者が焦ることなく、関係者への謝辞を述べ、自分自身のポジションや活動内容を説明し、議論のポイントを提言し、御礼を言って終わる。きちっと七分に収める。全員それが続きます。もちろんプログラム通りの運営という意味では当たり前のことです。でも、私はその当たり前のことをきちんと行っているシンポジウムを初めて体験したのです。関係者が綿密に準備を重ねてきたことがよくわかりました。聴衆を最大限に意識して、充実した内容になるように事前の準備と当日の運営に最善を尽くす。それは主催者の責任だと思いません。そのような当たり前のシンポジウムのあり方が当たり

前になっていないことについて不満を持っていて、自分がやるのであればそのような理想のシンポジウムを実現したいと思っていました。

——ニコニコ学会βの特徴として、動画共有サイト「ニコニコ動画」を基盤として、「動画をもとにコミュニケーションをする」、さらにシンポジウム会場の研究者の発表が「ニコニコ生放送」を通じて、生中継される点があります。なぜこのような形態をとられたのでしょうか。

「動画をもとにコミュニケーションする」という表現は正しいのですが、重要なのは「ニコニコ生放送による動画をもとにコミュニケーションする」という点なのです。その違いはつまり、要するに「Stream」を選ばなかったという

ことです。ニコニコ動画やニコニコ生放送と、YouTubeや「Stream」の違いは、簡単に言うとニコニコ動画はコミュニティなんです。「ニコ中」という言葉がありますが、ニコニコ動画の中毒者の略称ですね。つまり、ニュートラルな動画公開サイトを作るというニュアンスを越えて、ニコニコ動画にしかないコンテンツを作るという点が重要な点です。そのようなコンテンツを目的に集まってくる人との間でコミュニケーションが生まれ、それがコミュニティに育つように促されています。

その違いの根幹には、二〇〇七年に発表されたニコニコ宣言があります。ニコニコ動画は二〇〇六年に実験サービスとしてプレオープンし、二〇〇七年一月にβバージョンが公開され、本格的にサービスが開始されました。その時に、ニコニコ動画はいったい何を目指して作られているのかを示す「ニコニコ宣言」が発表されたのです。

私のもとと集合知の研究者で、集合知がどのような条件で作られるのかを研究していました。実を言うと、私は当時の集合知研究に違和感をもっていました。というのも、当時の集合知研究は「すでにある集合知」をどう分析するのかという点ばかりにフォーカスしていたからです。今のビックデータという言葉にも似たような違和感を持ちます。ところが、ニコニコ宣言には、Googleに代表されるような無機的な集合知ではなく、人間としての温かみのある集合知を作る、と書いてあるわけです。ニコニコ動画創



設者の川上量生は「Google 機械帝国」と呼んでいますが、それに反対して、人間らしい感情を持つ集合知を作るといふ。その言葉に共感したわけです。その宣言にあるような温かみのある集合知を私も作りたい。それが根底にあつて、ニコニコ動画を活用する学会を起ち上げたわけです。だからこそ、名前も「ニコニコ学会」にしたという経緯ですね。ちなみにこれだけニコニコ動画を称賛していると、私も「ニコ中」なのかと思われがちですが、実際には動画はほとんど見ません。生中継も、よほど興味が無い限り見ません。ですが、何が起つていっているかは調べて知つていて、現象としてのニコニコ動画にずっと興味を持っていたわけです。

——もう一つの特徴として、本職の研究者ではない人、彼らを「野生の研究者」と呼んで、積極的な参加を呼びかけておられます。ここにはどのような意図があるのでしょうか。

実を言うと当初は、ごく普通に本職の研究者だけが参加するシンポジウムを想定していたんです。それはそれでクオリティの高いコンテンツを集めれば面白いものになるでしょう。しかし、それではニコニコ動画らしくないのではないかという指摘がありました。そこで、ニコニコ動画で動画を発表しているような人たちにも発表してもらおうということになりました。

プログラミング言語のシンポジウムには、Ruby 会

議、YAPC など様々なシンポジウムがありますが、どのシンポジウムも大体の構成は同じです。三〇分から一時間程度の一般発表があり、最後にライトニングトークという五分の発表が一件連続で行われるセッションがある。私たちがその構成を踏襲して、最後に一番盛り上がるライトニングトークのセッションを配置することにしたのです。とはいえ、発表時間は一人三分と、ライトニングトークよりも短くしました。

「野生の」と言つても、「本職の研究者ではない」つまり「アマチュア」という意味とはやや異なります。実際には、プロの研究者だけど、自分が本当にやりたい研究を土日や休みの日にやって、その成果を発表するという人もいます。そういう人はプロ研究者なのですが、自分の内発的動機にしたがつて研究する人という意味で、野生の研究者と呼んでいるのではないかと思います。

また、実際のところ既存の学会やシンポジウムで野生の研究者が発表できないかという点、そんなことはありません。たいていのシンポジウムは発表者の所属に条件があるわけではないので、誰でも発表できます。しかし、ニコニコ学会βが特徴的なのは、そういった方を積極的に受け入れると宣言している点ですね。他のシンポジウムでは、まず論文を書いてそれを元に発表するという流れですので、その制約も外しました。研究成果を動画で説明できればそ

それでも良いということにしました。そのようにして可能な限り発表者への敷居を下げる工夫をしたのです。

ニコニコ学会βがもたらした変化

——シンポジウムも分科会も回数を重ねられて、本職の研究者と野生の研究者の交流など、これまでの学会のあり方とは異なる、何かニコニコ学会β特有の変化は生じていますか？

本職の研究者と野生の研究者の関わり合いは、実は難しい面があるなと思っています。たとえば一番わかりやすい結び付き方は、共同研究や論文の共著でしょう。しかし、ニコニコ学会βをきっかけとして共同研究が始められたという話は聞いたことがないです。既存の学会と違い、そのようになわたりやすい連携には結びつきにくいと思っています。よく説明するのは二つの成功事例です。一つは「スケルトニクス」という外骨格型のロボットです。人が装着することで身体動作を拡張できます。動力を使わないので、純

粋にその人の身体の動きを拡張する役割を果たす。沖縄高専の学生三人組が在学中に開発し、現在ではスケルトニクス株式会社を起業して、このロボットを販売しています。昨年末の紅白歌合戦では、スケルトニクスがバックダンサーとして踊りましたし、NTT光フレッツのCMにも登場しています。ハウステンボスでもスケルトニクスが採用されました。

もう一つは、クラタスというロボットです。この開発者は吉崎航さんと倉田光吾郎さんです。吉崎さんは「Vstido」という高性能のロボット制御ソフトの開発者です。彼はソフトバンクの出資で、Vstidoを販売する会社を立ち上げました。

ニコニコ学会βが無ければ、このような成功事例は生まれなかったかというところ、そうは思いません。ただ、ニコニコ学会βがこのような研究が広く世に知られるきっかけの一つを作ったんだと思っています。

それと、先ほどの話に戻りますが、共同研究や共著がす

漢簡語彙

中国古代木簡辞典

京都大学人文科学
研究所簡牘研究班

漢簡(中国漢代の木簡)に記された語の意味を解明した画期的な辞典。見出し字の画像も掲示する。

A5判 本体22,000円

漢簡語彙考証

富谷 至編

「漢簡語彙」はいかなる過程を経て結実したのか、具体的な議論と考証を明らかにする。姉妹編。

A5判 本体9500円

サンスクリット原典現代語訳

法華経(上)(下)

植木雅俊

正確でわかりやすい決定版翻訳「梵漢と対照・現代語訳法華経」がハンディで読みやすく生まれ変わった。

四六判 本体各2300円

史学探訪

東野治之

古代文化史研究の第一人者が、長年書き綴ってきた史料をめぐるエッセイから、選りすぐりの作品を集める。

四六判 本体2800円

西学東漸と東アジア

川原秀城編

イエズス会宣教師と中国の儒教知識人、科学知識を媒介とする両者の対話を総合的な文化史として論じる。

A5判 本体9300円



岩波書店

東京・千代田・一ツ橋
(定価は表示価格+税)

<http://www.iwanami.co.jp/>

んなりうまくいくかというところ、そんなことはないと思います。研究者にとっては論文が掲載されることが成果ですが、研究者ではない方にとってはそうではない。自分の開発した技術が製品として世に出ることの方がうれしいのではないのでしょうか。その意味では、論文として世に出すことと、製品として世に出すことがバッティングして、共同作業はうまくいかないのではないかと思います。

——「研究100連発」などの研究のほとんどは、自然科学が中心ですね。今後、人文科学や社会科学の研究により積極的に裾野を広げていくという計画はありますか。

もともと私自身が情報系の研究者ということもありますし、ニコニコ学会βの最初の関係者は情報系の研究者が多いんですね。その意味では、出発点は情報系の研究にあるし、そのような発表が主でした。ただ、いわゆる理系の研究に限っているわけではないので、いろいろな研究に幅を広げていきたいし、実際にはすでに文系の研究者にも多数登壇していただいています。

また、ニコニコ学会βならではというと、分野を横断した研究領域の発表があると思います。たとえば、データ研究会という分科会では、データ分析を行うので理系的な能力が必要ですが、テーマによっては文系的な思考も必要です。たとえば、エロ漫画統計の研究で有名な牧田翠さんと

いう野生の研究者がいます。エロ漫画は多数公開されていますが、きちんとした統計の対象にはなっていない。たとえばエロ漫画のタイトルがどのように変遷してきたのか、ジャンルによってコマ割りがどのように異なるのか、話が進むにつれて男女の割合がどのように変化していくのかなどを事細かに分析していて、まさに野生の研究の代表と言っていいような非常に面白い研究です。文献調査という意味では文系的でもあるし、定量的なデータ分析という意味では理系的でもあります。

それと、今回の第八回ニコニコ学会βシンポジウムでは、異性装セッションを実施する予定です。いま女装や男装はブームとも言われていますが、なぜそれを行うのか、セクシュアリティと女装や男装にはどのような関係があるのか、そのようなテーマについて議論する場を持ちたいと思います。このようなテーマはとも文系的なテーマを設定だと思えますが、とはいえ既存の学会でこのようなテーマを扱うのはやや難しいのではないかと思います。ニコニコ学会βとして扱う価値があると判断しました。

ただ、むやみに幅を広げたいと思っているわけではなくて、ニコニコ学会βの出自が理系の研究にあることは重視したいと思っています。自然科学と社会科学は、前提条件が大きく違うんですね。端的に言うところ、自然科学ははっきりとした答えが出るケースが多い。しかし、社会科学の場合は、対象が人間、つまり自分たち自身なので、どこま



第1回ニコニコ学会βシンポジウム@ニコファール

でいってもはつきりとした結論にはたどりつかない問題が多い。そのように問題設定が大きく異なる場面でも、その両者をむやみに融合させるのが良いとは思わないので、ケースバイケースで判断していきたいと思っています。

——ニコニコ学会βは、「オンラインとオフラインの枠を超えてそれぞれの利点を活かし、互いを結びつけていく」と宣言されています。相乗効果が表れていますか？

オンラインとオフラインの融合とは、もともとニコファールというライブハウスがあり、そこから生放送で中継することが出発点でしたので、そういう意味でした。もともとは「オンラインの学会」を目指すとしていたのですが、実際にはそうではないし、それを目指しているわけではないなと思ひ、オンラインとオフラインの両者の良さを活かすことにしました。ニコニコ学会βは、発表者側は一つの空間に集まり、観客の前で発表して、オンラインで発信します。ある意味、TVの生中継モデルに近いのです。ニコファールという場を大事にして、発表者や観客の緊張感や場の臨場感を保ちたい。それによって、コンテンツの質や魅力を高め、視聴者にとって面白いものになりたいと考えています。

それと、実をいうと動画だけがいいと思っっているわけではなくて、本のような出版物にも力を入れています。ニコ



第4回ニコニコ学会βシンポジウム セッション風景

ニコ学会βでは、動画の魅力を最大限に高める努力はしていますが、そもそも動画を視聴してもらうのは容易ではない。動画は視聴者に強いインパクトを与えるし、本よりも情報量が多いケースもあるでしょう。しかし、ある人が動画を視聴できる環境にあり、非常に魅力的なコンテンツがあつて、それが無料だとしても見るとは限らない。そもそも実は私自身が動画をあまり見る人間ではないのです(笑)。

非常に早い段階から、ニコニコ動画やニコニコ生放送に注目していましたが、だからと言ってずっとそれにはまっていたわけではない。動画を見てもらうのはハードルが高いと自身の経験からある程度理解していました。私の編著『ニコニコ学会βを研究してみた』はシンポジウムの内容を本にまとめたものです。それにインタビューなどの新たなコンテンツも付加しました。本を出すことで、私たちの活動の成果を発信できますし、充実した内容のシンポジウムを開催したという記録にもなります。また、『進化するアカデミア』はもう少し概念的な部分にフォーカスして、ニコニコ学会β誕生の経緯やその後の歴史を辿るような内容にしました。

今、取り組んでいるのは、『月刊ニコニコ学会β』という電子書籍です。キンドルで購入可能で、一冊三〇〇円です。すでに八号まで発行しています。セッション当日の発表内容を文字で追えて、セッション後の発表者へのインタビューも掲載しています。当日の動画は、タイムシフトで

かつて日常生活のなかにあった軍隊を、歴史的・社会的に考える体系的シリーズ

地域のなかの軍隊 全9巻 好評刊行中

既刊各2800円 [内容案内]送呈

北の軍隊と軍都

北海道・東北 山本和重編
仙台・旭川・弘前を中心に実態描く。

軍都としての帝都

関東 荒川章二編
近代日本最大の軍都の実像に迫る。

古都・商都の軍隊

近畿 原田敬一編
近畿を護る「農村」と「都会」の軍隊。

日本史を学ぶための

古文書・古記録訓読法

日本史史料研究会監修 芥米一志著
変体漢文を訓読するための、初めてのガイドブック。 1700円

描かれた倭寇

「倭寇図巻」と「抗倭図巻」

東京大学史料編纂所編 新発見の「抗倭図巻」を本邦初公開。オールカラーで再現！ 2500円

築何年？

炭素で調べる 古建築の年代研究
坂本 稔・中尾七重・国立歴史民俗博物館編 古民家から寺院まで、その建築年代がわかる！
【歴史フォーラム】 2700円

明治・大正の 広告メディア

熊倉一紗著 (正月用引札)が語るもの
驚くも消えていったメディアの全貌。図版多数。 2400円

社会とつながる 美術史学

太田智己著 4200円
近現代のアカデミズムとメディア・娯楽社会にとって美術の持つ意味とは何か。(シリーズ近代美術のゆくえ)

吉川弘文館

〒113-0033 東京文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151 / 価格は税別
P R誌「本郷」定期購読受付中

私たちの活動の発端はドワンゴとのコラボレーションにあります。研究者が実行委員会を組織し、ドワンゴがメインスポンサーとして、活動を支援してくれてきたからこそ、継続的な活動が可能となりました。ただ、私たちは独立し

—— ニコニコ学会βでは、運営資金の一部をクラウドファンディングで集めておられます。クラウドファンディングの活
用にはどのような意図があるのでしょうか。
本は名刺だとよく言われます。本をお読みいただければ、シンポジウムがとても充実した魅力ある内容だとご理解いただけるかと思います。ぜひ本をお読みいただいて、動画視聴につながるのであれば、それも理想的ですね。

いつでも視聴できるので、テキストで読んで面白かったセ
ッションを動画で見るという使い方をしてくれればと思
います。そういう形でも、オンラインとオフラインの融合を
図っていききたいですね。

た組織として、様々な会社にスポンサーとして支援をいた
だき、シンポジウムを開催してきました。ですから、ニコ
ニコ学会βは基本的には企業スポンサーによって成り立つ
学術的な任意団体です。
クラウドファンディングにはメリット、デメリット両方
あります。デメリットで大きいのは、資金集めを目的とし
て考えると、実はそれほど儲かる仕組みではないことです。
クラウドファンディングは一人あたり数千円から一万円く
らいの資金を提供していただき、リターンとして御礼状や
品物を送ったりしますが、その活動を行う手間や人件費ま
で含めて計算すると、とても利益は少ないのです。
ただ、金銭的なメリットではなく、それ以外も含めて考
えるとクラウドファンディングは有効です。その活動がど
れだけ人気があるかのバロメーターになる。多くの方から
直接的に資金を集められるような魅力的な活動だとアピ
ルできることよって、スポンサー集めが容易になったり
と、メリットが生まれるでしょう。またどのような人がサ

ポーターなのがわかることで、活動の方向性を考え直すこともできます。そういった社会的なつながりを強化できることが、クラウドファンディングの最大のメリットです。

もともとクラウドファンディングは製品を製造したりする際の初期費用の問題をクリアするために使われることが多かった。これだけの資金が集まる魅力的なコンテンツだという一種の証明、アピールの場としてクラウドファンディングを使い、それが証明されてからは、それを基に銀行から資金を借りて実際の運営を行なうというモデルは有効だと思います。そして、一般の方々から強い支持を得て行う活動だということを広く知らしめる場としてもクラウドファンディングは有用だと思います。

今後の展開

——既存の学会とニコニコ学会βとの関係性や、今後の関わり方について教えてください。

二〇一一年のニコニコ学会βの活動開始以来、幸いなことにさまざまな既存の学会との連携も生まれています。情報処理学会全国大会で特別セッションを持たせてもらったり、電子情報通信学会の学会誌で記事を掲載していただいたりしています。ヒューマンインタフェース学会の学会誌では、ニコニコ学会βの特集が組まれました。このように、ニコニコ学会βは既存の学会とは良好な関係を築いてい

て、どんどん交流は広がっていきたいと思っています。

いまだに連携を進めているのは、JST（科学技術振興機構）科学コミュニケーションセンターです。今回、ニコニコ学会βの「研究100連発」を一般的なメソッドとして育てたいという提案がありました。私たちとしても、ニコニコ学会βを終えた後に、研究100連発というメソッドが残って続いていくのは嬉しいので、協力しています。サイエンスアゴラという科学技術コミュニケーションに関するイベントがありますが、そこでJST主催で研究100連発を行いました。また、第七回ニコニコ学会βシンポジウムでもJST主催で研究100連発を行いました。このような交流は現在も続いていて、いずれメソッドの一般化ができれば、より波及効果があると思います。将来的にはさまざまな学会やシンポジウムで、「研究100連発」が定番の方式として行われるようになるの嬉しいですね。

——ニコニコ学会βは五年間の活動期限を設けていますので、来年二〇一六年には活動を終えられるわけですね。次のステップは何かお考えですか。

公式に言っていることは二つあります。一つは分科会です。ニコニコ学会βのなかで、データ研究会や運動会部などの研究会が起ち上がって、すでに定期的に数十人が集まり、研究発表を続ける場ができています。これはニコニコ

学会βが無くなっても、自主的に継続できる活動だと思っています。

もう一つは、メソッドとして残すという方法です。先ほどJSTとのコラボの話をしました。研究100連発がメソッドとして一般化され、さまざまなシンポジウムで開催されるようになれば、それはニコニコ学会βの成果を残す理想的な方法の一つだと思います。私たちは、研究100連発に留まらず、研究してみたマッドネスなど、視聴者が満足するコンテンツを作る方法論を考えることに力を入れてきました。また、シンポジウムの運営についても、視聴者が納得できる方法を模索しています。それがメソッドという形で一般化され、引き継がれていけば嬉しいですし、従来のシンポジウムにもその部分で影響を与えられたら、それは十分うれしい成果だと思えます。

ニコニコ超会議2015というドワンゴ主催イベントが今年の四月二五日(土)、二六日(日)に幕張メッセで開催されます。ニコニコ学会βも同日シンポジウムを開催し

福島に農林漁業をとり戻す

濱田武士 / 小山良太 / 早尻正宏
漁・農・林業経済学者が、科学的
知見に立ち原発災害からの復興
という難題に道筋を示す。¥3500

相互扶助の経済

無尽講・報徳の民衆思想史

ナジタ 徳川時代、飢饉に苦し
む庶民が共済組織を発展させた。
現代的テーマの源流を詳述。五
十嵐暁郎監訳 福井昌子訳 ¥5400

世界宗教の発明

ヨーロッパ普遍主義と多元主義の言説
増澤知子 19世紀の比較言語学
と宗教学によるアーリア語と仏
教の発見から、西洋近代の自己
形成を探る。秋山・中村訳 ¥6800

正義はどう論じられてきたか

相互性の歴史的展開

ジョンストン 功利主義・義務
論に続く正義の概念「相互性」か
らみる正義論の新たな見取図。
押村・谷澤・近藤・宮崎訳 ¥4500

形式論理学と 超越論的論理学

フッサール 論理学の根本法則
をいかに現象学的に基礎づける
か。『論研』から『危機』書に至る
中期代表作。立松弘孝訳 ¥7000

コミュニティ通訳

多文化共生社会のコミュニケーション
水野真木子 / 内藤稔 医療・司
法・行政通訳を柱に、手話通訳、
難民申請や、災害時など有事の
際の通訳まで。初の概論。¥3500

大隈重信関係文書 11 [完結]

大隈宛書翰約7400通を公刊。近代
日本研究に寄与する一級資料。
早稲田大学大史学資料センター
編 ¥15000 / 全11巻揃価¥119000



東京文京本郷
5丁目32-2
みすず書房
tel. 3814-0131 fax 3818-6435 (税別)
http://www.msz.co.jp

ます。今年はあるなげひろばというブースの一環として開催し、「ニコつく」というニコニコ技術部の方などが活動されている場と連携したブースとなります。今後は、そういった活動との連携を強化し、ニコニコ学会βの活動を根付かせていきたいと考えています。逆に言うと、そういった連携を強化することで、ニコニコ学会βのような活動をもっと普通のものにしていきたい。それが最終的にはうまくニコニコ学会βを無くすことにつながります。

ニコニコ超会議は実際に会場に足を運んで、その場に身を置くことで、その特殊性や面白さを知ることができるような場です。動画もテキストもインパクトがあるし、面白いと思いますが、実際に会場に来て、その場に身を置くことの方がはるかに強烈な体験です。そのように会場でニコニコ学会βを体験できるのは、ニコニコ超会議という一年に一度のイベントしかありません。ぜひこれまでもとはまったく異なるアカデミックな時空間を体験しに来てください。

特集*進化するアカデミック・コンテンツ

デジタルえほんと子どもの創造力

石戸奈々子

(慶應義塾大学准教授、NPO法人CANVAS理事長、株式会社デジタルえほん代表)

子どもの創造力「CANVAS」

世界の子どもたちがケータイを使って四コマ写真マンガを作る。デジカメを手には街にくりだし、ブログ、ポッドキャスト、新聞、映像という四つのメディアを通じて、地域情報を発信する。ポパイやチャップリン、スーパーマンなどの有名な映画を編集し、新しい映像を制作する。DJになる。こどもたちが無数の曲の中から、自分の欲しい音を選んで、組み合わせ、そして自分の表現をつくりあげて、人にきかせて、観客の体を揺さぶる。

二〇〇二年に設立したNPO法人CANVASは、デジタル時代の子どもたちに、創る場、表現する場を提供し続け、これまでに約三五万人の子どもたちが活動に参加している。

二一世紀に求められる力とは、そしてそのための学習環

境とはどんなものなのか。

これまでは、より多くの知識を得ることに評価の力点が置かれていた。教師が持っている知識を一方に多数生徒へ伝達する授業形態は、均一化された知識を身につけた人材を輩出する工業社会には効果的だった。

しかし、経済がグローバル化し、大量の情報が国境を変えて行き交う社会となった。異質な文化、異質な価値観から構成される共同体の中で、大量の情報を取捨選択し、再構築し、新たな価値を生み出す力が求められる。

多様性を尊重しつつ、個に応じた学習ができる。異なる背景や多様な力を持つ子どもたちがコミュニケーションを通じて協働し、新たな価値を生み出すことができる。CANVASが目指しているのは、そんな学びの場を作ることだ。

そして、子どもたちが最大限に活躍できるような環境を、

政府、地方自治体、企業関係者、博物館・科学館関係者、学校・教育関係者、大学等の研究者、アーティスト、すべの方々との連携により創り出している。

年に一度、子どもたちの創造・表現ワークショップの博覧会「ワークショップコレクション」を開催している。全国から約一〇〇のワークショップが集まる世界最大級の創作イベントとなった。

一貫したテーマは、「作る」。聞いたり探したり学んだりする活動は世の中に数多く存在するが、ここで扱うワークショップはみな能動的に作り、見せ、コミュニケーションを取るタイプの活動だ。創作・コミュニケーションの祭典である。

第一回開催時の参加者は五〇〇人。それから一〇年にわたり開催を続け、いまでは二日間で一〇万人の子どもたちが来場するようになった。新しい学びに対する保護者の需要の高まりを実感している。

教育の情報化

二〇〇〇年代前半、子どもたちの携帯利用が広がり始めた。内閣府の二〇一二年度の調査によると、高校生の九五・六％、中学生の四七・八％、小学生の二〇・三％が携帯電話を持つている。

しかし、二〇〇五年前後から子どもたちの携帯利用に関する賛否両論の議論が激しくなり始めた。携帯を持たせな

い運動を始める地域が出現した。総務省や文部科学省、民間の事業者によるネットリテラシーの啓蒙活動をはじめ、安全安心な情報社会を築いていこうという動きも全国的に広がった。

そして二〇一〇年。電子書籍元年と呼ばれた。アップルのiPadのようなタブレット端末、アマゾンのKindleのような電子書籍リーダー。パソコンや携帯に次ぐ新しいメディアが続々と登場した。時を同じくして、教育の情報化が大きく動き始めた。政府が力を入れ始め、「二〇二〇年に一人一台の情報端末とデジタル教科書が使える環境を実現する」ことを目標として掲げた。文部科学省、総務省も実証実験を推し進めた。

子どもたちが、モバイル情報端末を持つのがよいか悪いかという議論から、子どもたちがそれらを活用して学習する環境を整備する方向に動き出したのだ。

パソコンが一般に普及して三〇年近くなる。教育情報化も三〇年間、議論が積み上げられてきた。その間、オフィスでも、家庭でも、デジタル技術は当たり前のものになった。パソコンも携帯もインターネットも、欠かせないものになった。でも、学校は違う。小学校ではパソコンは六・五人に一台。携帯は持ち込ませないという学校も多い。教育現場だけは、デジタル技術の恩恵が受けられない場所になっている。欧米でもアジアでも、急速に学校の情報化が進むなかにあって、日本は後方にたたずんでいる。

てみようというのがコンセプトだ。指の動きと言葉と絵がシンクロする。機能はあえてシンプルにタップするだけ。グッドデザイン賞とキッズデザイン賞を受賞した。

「デジタルえほん」は、タブレット、電子書籍リーダー、電子黒板・サイネージ、スマートフォン等テレビやパソコン以外の新しい端末を含む子ども向けデジタル表現を総称するものと定義した。

そして、デジタル絵しりとりを自分でつくるツールとしての「*My Photo Story*」とり、ボストン美術館の所蔵品を活用したデジタル美術教材としての「My 雲龍図」、サイネージ向けのデジタルえほんとしての「希望をはこぶ人」などをこれまで手がけてきた。

想像力・創造力を育み、子どもたちを魅了し、夢中にさせる、親も一緒に楽しむ、そんな新しいデジタル表現を開拓していきたい。

世界中の子どもたちに愛されるデジタルえほんが、もつとたくさん生まれて欲しい。そのような想いから、「デジ

タルえほんアワード」も立ち上げた。絵本作家いしかわこうじ氏、きむらゆういち氏、株式会社角川グループホールディングス取締役会長 角川歴彦氏、精神科医 香山リカ氏、東京大学名誉教授・国立小児病院名誉院長 小林登氏、デジタルハリウッド大学学長 杉山知之氏、クリエイター・プロデューサー 水口哲也氏、脳科学者 茂木健一郎氏。豪華な審査員をお迎えし、「デジタルえほん」という新しいデジタル表現手法の開拓と発展を目指している。

審査基準は三つ。「たのしい!」「みたくはない!」「世界がひろがる!」。本アワードの特徴は企画部門があることだ。まだカタチになっていなくても、こんなデジタルえほんがあったらワクワクする! そのようなアイデアも含めて募集した。一回目から二〇〇を超える応募があった。二回目となる今回は中学生の受賞者もあらわれ、裾野の広がりを実感している。

「子どもは生物学的存在として生まれ、社会的存在として育つ」を柱に、自然科学・人文科学の両面から子どもを考

新刊案内

河上婦志子 著 菊判 四五〇頁・本体七〇〇〇円
二十世紀の女性教師 周辺化圧力に抗して

なぜ女性教師は問題視されねばならなかったのか、それに対してどのように対処したか。「女教師問題」言説の内実と消長を分析。

松本行真 著 東北大学災害科学国際研究所准教授 本体二〇〇〇円
被災コミュニティの実相と変容

福島県浜通り地方の調査分析
いわき市四倉地区、同市平置間地区、双葉郡楢葉町、富岡町の「その後」を「コミュニティ」再構築などをめぐる住民／行政などとの関係から分析。

中田晋自 著 菊判 二九〇頁・本体五四〇〇円
市民社会を鍛える政治の模索

フランスの「近隣民主主義」と「住区評議会制」
熱議民主主義論が注目する「ニハブリックス」のフランスの実践形態としての住区評議会制を現地調査の成果を踏まえて解明する。

山崎亮 著 A5判 三三〇頁・本体八六〇〇円
グローバリゼーションの農業構造動態

本源的蕃種の「中心」部過程に先発国型と後発国型を「周辺」部過程に東南アジア型とサバトラ型を指定する。

御茶の水書房

〒113-0033 東京都文京区本郷5-30-20
電話03-5684-0751
http://www.ochanomizushobo.co.jp/

える「子ども学」を提唱されている小林登先生は、デジタルえほんというのには「遊ぶ」と「学ぶ」の二つの力を併せ持っており、感性と理性の両面を刺激するメディアであるがゆえに、教育に深くつながっていくことを指摘する。「日本はアメリカや韓国に比べて教育の情報化が遅れている。日本の将来のためにも「子どもが情報をとらえる力」を考えてほしい」と小林先生はいう。

デジタルえほんの開発は国内のみならず世界にも広がっている。

世界中のデジタルえほんの魅力と可能性を子どもたちに体験してほしいと願い、二〇一三年から「国際デジタルえほんフェア」の開催もスタートさせた。名前のとおり、「デジタルえほん」を広く世界から集め展示する、世界で初めてのブックフェアだ。国内はもとより、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど世界約四〇カ国から、二五〇作品が集結する。

絵本は、マンガ、アニメなどビジュアル表現に強い日本が競争力を持っている分野だ。それをデジタル技術でさらにパワーアップし、文化面でも産業界でも、世界を先導してほしい。

二〇一三年一月には、市ヶ谷の駅近く、外堀通り沿いに「デジタルえほんミュージアム」がオープンした。大日本印刷株式会社の新しいビルの地下一階にある。デジタルえほんに特化したミュージアムは世界で初めてではなからう

か。

赤、青、黄。色とりどりの大きな木の実が並ぶ。その中に入り込み、国内外のたくさんの方のデジタルえほんを体験する。大きな白くてやわらかいテーブル。その上に乗っかり、投影されている大きなデジタルえほんを全身で楽しむ。壁にはピーターパンのデジタルえほん。魔法のステッキを振ると、ピーターパンが、ティンカーベルが動き出す。ビッグベンの時計の針がぐるぐるまわり、ロンドンの夜の街頭に光がともる。

特別企画展も四半期ごとに開催される。初回の展示は「デジタルえほんへんしん展」。デジタルえほん「デジタルえほんへんしん」にまつわるデジタル・アナログの様々な作品が展示されている。子どもたちがすべて手に取って触って遊べる展示だ。大きなディスプレイや壁、展示物を通じて、子どもたちが作品の世界に入り込めるようになっていく。創作ワークショップも毎日行われている。

世界中の子どもたちに愛されるデジタルえほんをつくりたい。世界中の子どもたちに好奇心を刺激するデジタルえほんを届けたい。少しずつ輪がひろがってきているのを感じる。その輪を海外にも広げられないか。

これからも、「想像する心と創造する力を培う」道具や場を創り続けていきたい。

特集*進化するアカデミック・コンテンツ

MOOC時代をともにつくる——これからの教育の担い方

阿部卓也 (東京大学大学院情報学環特任講師)

ハーバード大がハリウッド並みの映像スタジオを？

緑に囲まれたハーバード大の中心区域ハーバード・ヤードにあって、ワイドナー図書館は、四階建てに十層三〇〇万冊収容の書庫を抱える、まさに知の殿堂と言うべき施設である。二〇一三年秋、ここにMOOC^①等の教材制作支援の場所として、最新の映像収録機材を備えた「ハウザー・デジタルスタジオ^②」がオープンした。このニュースは、同スタジオがグーテンベルグ聖書を陳列する記念室の下の階にあることを利用した広報メッセージ^③と絡まりながら、大学における知の蓄積や伝達のツールが書物からマルチメディアや電子へと移行しつつある時代の、象徴的な出来事として世界に受け取られた。

筆者は二〇一五年一月に、このハウザー・デジタルスタジオを訪問する機会を得た。自身はオンライン教材開発の

専門ではないし、MOOCの運用やコンテンツ設計に関与した経験も無いが、東京大学新図書館計画^④の特任教員として、図書館を改革し、知や大学を社会と連携させていくためのプロジェクトに日々携わっている。大学図書館が教育支援に関わることの重要性や、コンテンツ制作のためのスタジオを図書館が持つ意義について、活発に議論がなされている中で、MIT/東京大学宮川繁教授の親身な仲介により、見学することができた。

ひよつとして図書館の地下にハリウッド並みの映像拠点があるのでは？ といった予期を持って訪れたそのスタジオは、グリーンバックの小振りな収録室と、調整室・兼機材置き場からなる、コンパクトな空間だった。考えてみれば、デジタル技術の急激な発達とコモディティ化は、以前とは比較にならないほど低コスト・高スペックな映像制作を可能にした。目的が、レクチャー映像とCGを組み合

わせた教材を堅実に制作することであれば、そもそも巨大なスタジオは必要ないし、設置するハードルも、必ずしも高くないのだ。真に重要なのは、設備を適切に管理・活用し、意義のあるコンテンツを制作していく体制のデザインである。そしてそのことは、従来の教職員のキャリアパスや分担の在り方に留まらない、多様なスタッフが連携して働く学術組織の姿を示唆するだろう。本エッセイでは、個人的な見聞のもと、この問題について考えてみたい。

合理的なスケールと、役割分担

グリーンバックのペンキを塗り替え中のハウザー・スタジオで、プロダクション・スーパバイザーの Patrick Rich 氏に話を聞いた。氏はスタジオに専任・期限なしで雇用されたスタッフで、美術修士の学位を持つ映像の専門家である。自身が映画作家であると同時に、機材管理から撮影まで映像まわりを広くサポートできる知識の持ち主だ。機材の選定を始め、スタジオには立ち上げから関わってきた。スタジオは図書館内にあるが、組織論上は図書館ではなく、リベラル・アーツの学部^⑤と「HarvardX」という組織が協同管理する。機能上の位置づけは「教職員が、世界的公開を前提にした教材を制作するため」の収録スタジオ。つまり、現状では学生は利用できないし、プリ/ポスト・プロダクションは原則的にサポートしない。にも関わらず、このスタジオが高い稼働率を誇るのは、ここだけ

が単体で映像教材の制作を担っているわけではなく、学内にコンテンツ制作をサポートする他の専門組織^⑥が複数あり、それらと分担・連携することが前提になっているからだ。

その中でも深い関係を持つのが、前述した HarvardX である。HarvardX は、ハーバードと MIT による MOOC プラットフォーム「edX」の開始時に設立されたオンライン教育の支援組織で、MOOC / SPOC^⑦制作の拠点となっている。ハーバード・ヤードから徒歩で約五分、郵便局のビルの上階にある HarvardX を尋ねると、そこはさながら小規模なテレビ局だ。PC デスクが並び、小さなスタジオも備えたオフィスで、プロジェクト・リードの Jacha Smilack 氏、プロダクション・コーディネーターの Ana Trandafir 氏らに、MOOC 制作の実際について聞いた。企画は持ち込まれることもあるという。Smilack 氏（氏は Ph.D. の学位も持つ）のようなスタッフが、教員とコミュニケーションし、入念に計画をたてる。カメラへの語りかけか、対談か、教室形式かなど、適切なスタイルは、教員の個性や内容次第だ。文字で読むほうが分かりやすいならば、映像にする意味は無い。テスト撮影を行ない、計画中にプラン変更することも。Smilack 氏は一例として、抽象度の高い内容を伝えるためにアニメ形式にした MOOC を見せてくれた。そのように複数進行するプロジェクトを、

藤原書店

ヨーロッパは中世に誕生したのか？

J・ル=ゴフ 中世史の最高権威がダイナミックに描くヨーロッパ成立史の決定版。英仏西伊5ヶ国共同出版。 菅沼潤訳 4800円

対欧米外交の追憶

1962-1997 ④⑤

有馬龍夫 日本の主要な外交現場に携わった、知財派外交官のオーラルヒストリー。 竹中治監編 各4200円

見えないものを見る力

「潜在自然植生」の思想と実践

宮脇昭 「いのちの森づくり」に生涯を賭ける、植物生態学者。 2600円
人類最後の日 少年少女へ。 2200円

「古代学」とは何か

展望と課題

上田正昭 文字史料を批判的にも考察しつつ、遺跡や遺物、神話や民間伝承なども総合的に考察。 3300円

詩 魂

高銀・石牟礼道子 韓国と日本を代表する知の両巨人が、文学、人間、そして人類最後の聖地・海をめぐる、魂を交感させ語り尽くす。 1600円

◎明治初年を問直し、土台から日本を塗り直す！

学芸総合誌 季刊 **環** | 歴史・現城・文明
vol. 60 2015年冬号

〈特集〉「明治」を問直し
芳賀徹十片山社秀十新保祐司/平川前弘/小倉紀蔵/杉原志啓/阪本走丸ほか
〈特集〉アノミクスのゆくえ原田泰/榊原英資
〈特集〉沖島はどうなるか海野理登/川崎信一ほか
〈トピック〉竹野野矢さんがいなくなった藤田浩一十
ゆらづる 〈巻物の開窓〉 上田正昭ほか 〈連載〉川崎
平太/宮脇昭/金子兜太ほか 3600円

月刊 **機**

86変27頁 2月号 No.275
加藤晴久/宮脇昭/竹中治堅/有馬龍夫
/南明日香/江種満子/岡田英弘/宮脇淳子/尾形明子/山崎陽子/大沢文夫ほか

年間購読料2000円(送料込) ◎見本誌・ブックガイド呈 ※表示価格税別

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町523
振替 00160-4-17013 TEL03-5272-0301
ホームページ <http://www.fujiwara-shoten.co.jp/>

Trandfir 氏らプロダクション・マネジメントを学んだスタッフが工程管理する。そしてカメラマン、編集者、グラフィック作成、権利処理、G&Pの管理など、専門技術を持ったスタッフが、同じ空間で分担しつつ連携して働いている。カメラのセットをしていた若い技術スタッフは「この施設でこんなことが出来るかを教職員にPRすることが重要だ」と語り、自身が制作した学内プロモーション用の動画をラップトップで見せてくれた。

第三の職域

「MOOCを真剣にやっつけていくならば、従来のように講師ひとりでの力で授業を作るのではなく、適切な技能を持ったプロフェッショナルが連携し、設計をサポートする体制が、ますます重要になるでしょう」。そう語るのは、日本のMOOCプラットフォーム Gacco(ガッコ)で講座「インタラクティブ・ティーチング」を担当した栗田佳代子氏(東京大学大学院総合教育研究センター特任准教授・高等教育開発)だ。

MOOCは、いくつもの点でリアルな授業と本質的に異なっており、講師はこれまでリアルな授業で培ってきたものとは違う、新たな方法論を学ぶ必要がある。たとえば、MOOCにおいて視聴に耐える動画の長さは、約10分とされている。「私の場合、FD(フーディ)が専門のひとつでしたので、通常の90分の授業設計の知識はありません。けれど10分の映像群を構成して授業を作るには、その知識の単純な適用では不足でした」と栗田氏は語る。通常授業と違って「学生の反応を見ながら補正する」ことができないため、独力では、どうしても説明不足や論理の飛躍が紛れ込んでしまったという。そこで栗田氏は、自身のもとで教育技法の単位を取得した大学院生とともに、新たな工夫と試行錯誤をし、MOOCの講座を作り上げた。しかし今後、より多くの教員とオンライン教材を開発していくには、Srikanth 氏のようなコンサルティングを含む、体系的な支援体制が必要になるだろう。身振りや目線の使い方といった、視聴者の集中力を維持するメソッドの指導も必要にな

るはずだ。それは、自身の研究成果をキャリアパスとする教員と、総合的な業務を支える職員に加えて、高度な専門技能を持ち、大学の高等教育・研究を回転させていくポジションが必要になることを意味する。ハウザー・スタジオやHarvardXの人員は、研究者ではなくアドミニストレーション・サポート・スタッフとして位置づけられているが、そのような形で働く人々や、そのためのキャリアパス・デザインと資格（たとえば、プロフェッショナルの証明としての修士や博士号の使われ方）が、ますます重要になるだろう。これは、大学改革をめぐる繰り返し提起されてきた議論だが、MOOCという国際的ゲームへの参入は、その必要性を切実に確認させる契機のひとつとなっている。

何のために、どうやって、どこまで？

だがHarvardXのように充実した体制は、あくまで潤沢な資金を前提にした話だ、と感じられるかも知れない。理想にほど遠い予算しかないときは、どうすれば良いのか？ それは結局、「そもそも何のためにオンライン講義に取り組むのか？」という目的設定次第だろう。クオリティの要求ラインも、組織の立ち位置に応じた使命と戦略によって決まる。いずれにしても重要なのは、意思決定者と現場が緊密に連携して、目的と実現可能な品質の折り合う地点について合意を形成することだ。そこさえクリアされていれば「完璧でなくとも、意味のある成果を作れるようなや

り方」は何かしらあるはずだ。

その意味で最後に紹介したいのは、仏ポンピドゥーセクターIERI（リサーチ&イノベーション研究所）^①の取り組みだ。世界的な技術哲学者ベルナル・ステイグレルによって二〇〇六年に設立されたIERIは、大学や国営でもなく企業でもない「第三の立ち位置」をもった独立系の研究所だ。予算規模で言えば、HarvardXや主要大学のオンライン講座とは比べるべくもないが、テクノロジーの持つポジティブな可能性を社会にもたらすことを使命に、教育ツールの開発に取り組み、学術活動を精力的に続けている。IERIは、動画への注釈システムといった、メディア批評のソフトウェアを多数開発しているが、単純に既成品を利用するのでも、過度に独自性こだわるのでもなく、オープンな国際標準を踏まえたうえで、「知の公共性のために、何が必要で実現可能か」という観点で、自ら道具をデザインするアプローチをとっている。筆者は二〇一一年から一三年までIERIに客員研究員として滞在する機会を得たが、限られたリソースで成果を積み重ね、フットワーク軽く活動する彼らの姿勢は、強く印象に残るものだった。ステイグレルが示す理念や方向性を、マネージメント担当がプロジェクトとマッチングさせ、エンジニアやデザイナーが仕様に落とし込んで開発する。そのようにして作られたツールが、教育者や文化政策担当者と連携して学校やパリの文化フェスティバルに導入されたり、公共テ

レビの選挙特番で市民の意見を可視化する装置として使われたりする。自分たちでも公開講座を毎週のように主催し、最先端の哲学的議論^⑩を世界に配信する。撮影・配信スタッフは基本的に一人、画質はウェブカム程度で、未編集映像の「録って出し」だが、独自開発したプラットフォームを使うことで、あとから注釈を加えたり、重要箇所のマークができるようになっていく。IRIは、彼らなりの理念と条件の中で、最善の方法を模索し実践しているのだ。

このように「デジタルによる知のオープン化」は、グローバル・スタンダードに収斂されないものも含め、多様な方法に開かれている。そしてMOOCや大学という枠組みを使おうと、そうでなかつたら、知の担い手の在り方に一定以上の再配置を求めることになる。そのとき社会において教育や学術が使命を果たすためには、テクノロジーを基本単位にして異なる専門性を持ったスペシャリストを連携させ、理論と実践との間に徹底した緊密なコミュニケーションのループをつくっていく以外に無いのだろう。

(1) Massive Open Online Course インターネットで公開された無料の講座を誰でも受講でき、条件を満たすと修了証が取得できるシステム。

(2) 正式名称はThe Rita E. and Gustave M. Hauser Digital Teaching & Learning Studio <http://hauserdigitalstudio.harvard.edu/>

(3) たよん <http://news.harvard.edu/gazette/story/2013/09/move-over-gutenberg/> <http://harvardmagazine.com/2013/09/video-training-ground-to-debut-in-widener> など

(4) 東京大学新図書館計画については <http://new.lib.u-tokyo.ac.jp>

(5) Faculty of Arts and Sciences のこと。ハーバード大学内で最大の部局で、同大学における教育・学習の全般を担当する。

(6) たとえば各学部が存在しているメディアサービス部門。

(7) Small Private Online Course MOOCでは不可能な学び方(講師と受講生の密なやりとりなど)の実現のため、受講人数等に制限を加え、MOOCより小規模におこなうオンライン講座。

(8) IMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)が公認したMOOCプラットフォームのひとつ。NTTドコモ、NTTナレッジ・スクウェアによって提供されている。 <http://gacco.org>

(9) この講座は、アクティブ・ラーニング手法を学ぶ授業、すなわち「これからの大学での授業のやり方について、オンライン講座で学ぶ」というものだった。

(10) Faculty Development 大学教員の教育能力改革。

(11) Institut de recherche et d'innovation du centre pompidou <http://www.iri.centrepompidou.fr/>

(12) たとえば、IRIの関連プロジェクト「Digital Studies」などを参照。「フッサールが現象学の概念を練り上げるにあたって、速記法がどのような影響をおよぼしたか」といった先鋭的な講義を、誰でも視聴することが出来る。 <http://digital-studies.org/wp/nicolas-de-waren-et-giuseppe-longo-270115/>

謝辞 本稿執筆にあたり、文中で言及した個人および組織に加え、以下の方々にもご協力いただきました。東京大学新図書館計画推進室長の石田英敬教授、MOOC講座のアシスタント経験を活かしてください。東京大学博士課程の吉田壘さん、ハーバード大訪問の取材メモを作成してください。東京大学附属図書館の古島唯さん、そして著者らのポストン滞在中に長時間対応してください。示唆に富む事例紹介と前向きな助言によって本稿に直接のアイデアを与えてくださった、在米ジャーナリスト菅谷明子さんです。すべての方々へ厚く御礼申し上げます。

特集*進化するアカデミック・コンテンツ

アカデミック・コンテンツの過去と現在、そして未来

岡本真 (ACADEMIC RESOURCE GUIDE)

アカデミック・コンテンツの過去と現在

二六年前のウェブの登場はアカデミック・コンテンツのあり方に大きな影響を与えた。その発表・発信形態のほとんどが書籍と雑誌の世界に限られていたアカデミック・コンテンツは、いまやウェブでの発信を併用しつつある。

この結果、たとえば機関リポジトリやデジタルアーカイブが生み出され、従来の手法と併存しつつ、アカデミック・コンテンツはウェブ上で広く流通するようになってきた。

また、ウェブ普及の草創期といえる一九九〇年代後半から、特に研究者が自らのウェブサイトを公開し、そこで研究成果や研究に用いたローデータを公開する流れも生まれた。さらに、二〇〇〇年代中盤に登場したソーシャルメディアによって、発信の敷居はさらに下がり、ブログやTwitter、Facebookを活用する研究者の姿も珍しいものでは

なくなっている。特にTwitterを使って自身の専門とする領域に関する社会的発言を行い、市民と直接対話する研究者も現れるようになった。

そして、STREAMやニコニコ動画、YouTubeといった動画サイトの登場によって、ウェブでの発信における表現手法も増している。本特集でも紹介されているニコニコ学会Bのように（筆者も委員の一人である）、サイエンスを誰もが動画で発信していくムーブメントも登場した。また、MOOCと呼ばれる大学の講義をオンラインで配信し、かつ受講者とのインタラクティブなコミュニケーションを実現する仕組みまで登場している。日本でも、NTTドコモらが開設したGacco（ガッコ）が公開一年を待たずに一〇万名もの受講登録者を集めるまでになっている。

ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG) 2017年から

さて、ウェブの登場以降のアカデミック・コンテンツのここ二〇年ほどのありようを概観してみたが、こう振り返ってみると感慨深いものがある。筆者は一九九八年にウェブの学術利用をテーマにしたメールマガジンACADEMIC RESOURCE GUIDE（以下、ARG）を創刊し、多少の中断を挟みつつも発行し続けている。一七年近くウェブとアカデミック・コンテンツがどう絡み合っていくのか、ウォッチし続けてきたが、その一七年ほどの時間も文字にすれば、わずか六〇〇字ほどで表現されてしまうわけである。

「なかなか「未来」の話に進まないのだが、もう少しおつきあいいただきたい。実に五〇〇回以上ARGを発行してきたわけだが、その記事構成の変遷にはその時代時代がもう少し詳しく透けて見える。

一九九八年～…主に研究者個人のサイトの紹介が中心
二〇〇〇年～…ウェブの学術利用を提唱する論考が中心
二〇〇三年～…主に組織運営の学術サイトの紹介が中心
冒頭で概観したものが、おおかたには正史と感じられるものだろう。だが、ただひたすらに観察してきた身からすると、事態はもう少し複雑に推移してきたように思える。

一九九〇年代後半のウェブ初期段階では、研究者の個人サイトは明らかに紹介しきれぬほどしかなかった。当時の記録をみると、ARG創刊時点で筆者が把握していた研究者の個人サイトは五〇〇程度である。二〇〇〇年代に差し掛かった段階でその数は急速に増え、また研究者がウェブ

を活用することが分野を問わずに広まり出した。そして、二〇〇〇年代の中盤を待たずに、その数は追いきれるものではなくなったのである。

そして、同時に二〇〇〇年代中盤からは大学や研究所、学会といった組織がウェブを活用してアカデミック・コンテンツを発信することが標準化していった。こう見てみると、ウェブでのアカデミック・コンテンツ流通の隆盛を主導したのは、やはり研究者という専門家集団であったといえるのだろう。そろそろ「未来」の話に入るが、「未来」につながる「現在」をつくつてきた「過去」について、あえてここで証言を残しておきたいと思い、いささか脱線かもしれないが、ここに記しておく（なお、初期段階の研究者の個人サイトについては、本誌第四九号（二〇〇一年六月一日発行）に筆者が書いた「これからの学術情報流通におけるインターネットの役割」も参照してほしい）。

アカデミック・コンテンツの未来

では、この先はどうなるのだろうか。二六年前に誕生したウェブと出会ったことで大きな進展を見せたアカデミック・コンテンツの流通だが、次の二五年はどのような展開をみせるのだろうか。およそ筆者の能力を超える問いではあるが、大きく三つの方向性を指摘しておきたい。

- 1 ユニバーサル化
- 2 アーカイブ化

3 オープンデータ化

ユニバーサル化

一点目のユニバーサル化については、先にふれたニコニコ学会βが象徴的だろう。また、その是非は別として、東日本大震災以降、主に原発問題を巡って、精緻な議論をウェブ上で展開する非職業的な研究者の存在も見受けられる。

このような現象の背景の一つには、機関リポジトリや各種デジタルアーカイブの整備があるだろう。アカデミック・コンテンツが以前に比べれば圧倒的なまでにウェブで閲覧できるようになっていることが職業的な専門家ではない在野の研究者の活動を活発化させている。そして、従来は放送大学が唯一の存在であった高等教育というアカデミック・コンテンツも、GoogleのようなMOOCの登場によって、より身近なものとなりつつある。

個々のサービスの消長はあるだろうが、この流れそのものは、もはや変わることはない。ウェブは玉石混交という陳腐な指摘も依然として生き残るだろうが、確実にその言葉の重みは減るはずだ。なぜならば、誰もがウェブを通してアカデミック・コンテンツに接しやすくなるということからは、その内容の検証をより行いやすくなることを意味するからだ。その結果、玉石を差別する作業はより広範に行われるようになる。いくなれば従来のピアレビューに加え、クラウドレビューがなされるようになるだろう。

いや、実際、すでに私たちはその時代に突入しつつある。

記憶に新しいSTAP細胞問題では、当該研究の問題点や矛盾点がウェブ上で指摘され出したこともあって、事象が結果的には進展している。同様のケースは実は枚挙の暇がないほどある。論文不正の発覚理由がウェブで公開した論文そのものであったというケースも報道されている。

ただし、クラウドレビューが何も研究不正の発見だけを向いているわけではない。前述のニコニコ学会βのように、プロアマを問わず研究という行為からスターを発掘する可能性も持つてゐることは踏まえてほしい。アカデミック・コンテンツがユニバーサル化することは、その過程において一定の混乱を起こしつつも、学問のあり方をより広がりがあり、高みをめざすものへと変えていくだろう。

アーカイブ化

すでにデジタルアーカイブという言葉を繰り返し使っているが、アカデミック・コンテンツがウェブと出会ったことによる最大の恩恵の一つがこれだといえる。もちろん、これまでのアカデミック・コンテンツも、書籍や雑誌という形態で流通と保存が図られてきており、私たちが過去の知的営為にふれられるのは、こうした取り組みを続けてきた先人のおかげである。

しかし、デジタル化されウェブでいつでもどこからでもアクセスできるデジタルアーカイブは、私たちとアカデミック・コンテンツの関係を大きく変えている。その気になれば、即座に先行論文を調べ、ローデータをチェックする

NIPPON NIPPON basic Series 日評ベーシックシリーズ

法律分野も刊行開始!
第1弾 2冊刊行

家族法 ■1,800円+税
本山 敦・青竹美佳
羽生香織・水野貴浩〔著〕

労働法 ■1,900円+税
和田 肇・相澤美智子
緒方桂子・山川和義〔著〕
学習の魅力を読者に提供する「読む楽しさ」を追求した教科書。読み進めることで、最低限の知識と思考が無理なく身につく。

入門経済学 [第4版]
伊藤元重〔著〕 ■3,000円+税
現実の経済問題を豊富に取り上げ、初学者が経済学を具体的に理解できるよう工夫。章末の演習問題には丁寧な解答付き。

水俣病の民衆史
第1巻 前の時代
舞台としての三つの村と水俣湾
岡本達明〔著〕 ■6,500円+税
未公開の第一級資料を駆使して、水俣病激発村を徹底研究し、闘争の全体像を初めて描き出す。全六巻、刊行開始!

ピジョンの誘惑
論理力を鍛える70の扉
根上生也〔著〕 ■1,500円+税
地球上には、髪の毛の本数が同じ人がいる―「鳩の巢原理」を使えば簡単に示すことができる。初級編から読み進めて、数学的思考を体得。

**宇宙の物質は
どのようにできたのか**
素粒子から生命へ
日本物理学会〔編〕 ■2,400円+税
ビッグス粒子やダークマターなど宇宙の謎を、10名の研究者が、最新の知見から語る。

**理系ジェネラリスト
への手引き**
いま必要とされる知とリテラシー
岡村定矩・三浦孝夫
玉井哲雄・伊藤隆一〔編〕
実験のレポート作成、統計処理、プレゼンなど、あらゆる場面で役立つ必携書。 ■2,200円+税

日本評論社
〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL:03-3987-8621 <http://www.nippon.co.jp/>

ことは極めて容易になっていく。

この傾向は未来に向かってますます加速するだろう。その先駆的事例の一つが、長尾真・国立国会図書館前館長が推し進めた国立国会図書館の蔵書の大規模デジタル化である。いまや、国立国会図書館内はもちろん、全国各地の公共図書館や大学図書館の四〇〇館以上で、

図書・一九六八年までに受け入れた図書約五十一万点

古籍籍・明治期以降の貴重書等約二万点

雑誌・二〇〇〇年までに発行された雑誌(商業出版されていないもの)約二万タイトル(約七三万点)

博士論文・一九九一年度〜二〇〇〇年度に送付を受けた

論文(商業出版されていないもの)約一二万点

を閲覧できるようにになっている。最初から電子形態で世に出るいわゆる「ポーンデジタル」なアカデミック・コンテンツのみならず、アナログ形態でしか存在していなかったアカデミック・コンテンツのデジタル化が進むことで、私たちはアカデミック・コンテンツを文字通りアーカイブ化

できるようになるはずだ。

無限のアーカイブ機能を持つ未来のライブラリーステムに新旧のアカデミック・コンテンツは収められ、活用されるようになるだろうし、そうならねばアカデミック・コンテンツを私たちが生かしきれなくもあるのだ。

オープンデータ化

最後は国際的な取り組みともなっているオープンデータ化である。営利目的も含めて自由に二次利用できるようにするオープンデータ化は行政情報の分野では進展している。

この流れはアカデミック・コンテンツにも及んでくるだろう。実際、国立極地研究所のように、極地での観測データをオープンデータにする取り組みも見受けられるようになっていく。

ウェブで流通するアカデミック・コンテンツが可能な限りオープンデータとして流通し、その二次利用から新たなアカデミック・コンテンツが創造されるようになることが、私たちが体験する知的創造活動の新たな段階となるはずだ。

折りに触れて書きとめた私のデザインノートより

- 一つの単純なモチーフを反復させ無限のイメージに増幅させていく
- バッハの作曲法はフラクタル図形のような
- その作曲法からもデザインを学べる



文字の誕生によって人々が文字による伝達に頼り
 口語的な語り口が文語的な表現になり
 対話が持つ豊かな言語環境が失われたと
 ソクラテスが言った
 ソクラテスは
 言語を文にすることを嫌った
 それは対話を持つ
 言語の力が
 奪われることを
 恐れたからだ
 ケータイでの
 会話を
 私も恐れる



命の形
 形には音
 音には形
 音があ
 る

音と形のリズム
 言葉を正しく伝えるには
 文法的な規則に従ってなければならない
 イメージを明確に伝えるのも、同じく
 感性の法則に従っていないなければならない

命の形 — 形 — 命

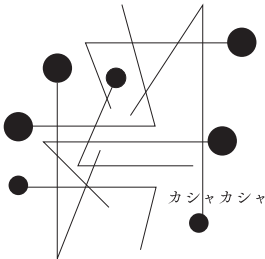
Lives of Form | Form of Lives / No. 03

楽しいLayoutは良い音がする

ヌルーン



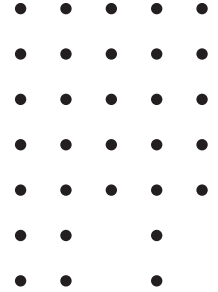
原始の時代から、暮らしの中に歌や絵があった
歌は人から人へ口伝されてきたので
当時はどんな歌だったのか、その記録は残されていない
一度聞いてみたいと思う
絵や彫刻は幸いなことに今日でも
当時のものが沢山残されている
本来、芸術と生活は共存していた訳だから
その絵や彫刻の姿から
当時の歌を想像できそうな気がする
あの原始美術の生命の根幹を揺さぶる力強さが、
歌の世界にも、魂の声として
存在していたのではないだろうか
勝手な想像をしてみる



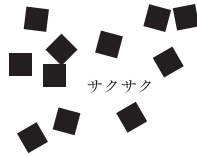
カシャカシャ

中垣信夫 | グラフィックデザイナー
Nobuo NAKAGAKI | Graphic Designer

俳句や和歌は
吐く息と
吸う息から
文字数が
割り出されている



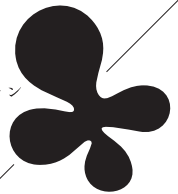
2つの音が共振すれば
美しいパターンが発生する
Hans Jenny



サクサク

違ったものを組み合わせると
新しいものが生まれる

ピチョン



アルファベットはたった
26文字の組み合わせ
そこから合理的な
思考が生まれたのだろうか

日本語は50音あればほぼ全ての意味を
伝えられるとても単純な音の組み合わせだ

シーハ



大学出版部ニュース

表示価格は税別です。

発足から八年たった賛助会員制度

協会がまだ有限責任中間法人だった二〇〇六年に「大学出版部協会 賛助会員制度」が発足した。同年の本誌秋号に、スタート時の三一会員社が掲載されている。今年度は協会を挙げて広報活動に動き、結果として九社の新規ご加入を頂いた。これで四六社になったが、こうして広告や印刷業界などから沢山の賛助を受けているという事実は私たちを励ましてくれるし、また学術出版を発展させる責務のあることも同時に考えるべきだろう。

×月〇日

夕方、日本出版クラブ会館で辞会出版文化賞贈呈式に参席した。さかのぼってみると協会からは、文化賞に法政大学出版局、東海大学出版会が、特別賞に名古屋大学出版会、京都大学学術出版会が受賞しており、今回は大阪大学出版会が「新聞社学芸文化賞特別賞」を受けたのである。大学の正規科目において教員、学生、出版会の三者で「本をつくる」プロジェクトに挑戦したこの話は『大学出版』前号で同会川上展代さんの報告に詳しいので、ぜひそちらを参照されたい。

二百名をはるかに超える三時間近い受賞パーティーは盛会であった。選考のことば（外岡秀俊氏）を借りると、受賞社の

評価ポイントは「ケンカを売っているとこる」「社会の木鐸の役割を果たしている」「やりたいことをやる美学」などであったとしている。この評言には敬意を表したい。今年で三〇回に及ぶこの賞がここまでこれたのは、どうやら選考委員の選考にあったようである。本賞を受けたあけび書房は「NHKが危ない!」「これでもいいのか! 日本のメディア」などの「!」に気骨があるというのだが、同社のHPを開くついでにリンクを覗くと「社会保障」や「障害者問題」などの団体名が並んでいて、成程と肯ける。NHKといえは、芸人が笑わせる教育テーマの民放バラエティだと思っただけであらう。結局Eテレだったということがあった。卓越したテレビ批評を発信し続けたナンシー関は、かつて「つつこみとか茶化しが存在しないのがNHKという空間である」と書いたが、今や隔世の感ありである。公共放送は国民の受信料によって支えられているのだから、テレビの視聴率競争に参加してはならないだろ! この大事なバックボーンが今の経営者の眼中に入っているのかどうか疑わしい。そんなことも含めて、メディアの一端を担う出版は、きつちりとしたメディア研究批判?の書を出し続けていって欲しい。

北海道大学出版会

- ▼加藤美保子著『アジア・太平洋のロシア―冷戦後国際秩序の模索と多国間主義』（A5判・六〇〇〇円）冷戦後ロシアの国際秩序構想と外交戦略を、とくにアジア・太平洋地域の文脈から検討。
- ▼川股修二著『税理士制度と納税環境整備―税理士法33条の2の機能』（A5判・六〇〇〇円）税理士制度の構造的問題を論じ、外国の同制度や日本の他の専門家制度と比較。理想的納税環境も検討。
- ▼藤井忠志著『日本のクマゲラ』（A5判・二八〇〇円）生息個体数が極端に少ない日本最大のキツツキ、クマゲラ。その謎の生態にスポットをあてた一冊。
- ▼高田雅之責任編集／辻井達一・岡田操・高田雅之著『湿地の博物誌』（A5判・三四〇〇円）湿地と人間とのかかわりを、建築・経済・観光・戦史・祭祀等のテーマで描出。自然・社会・人文諸学の垣根を越え、湿地のもたらす恵沢を考察。
- ▼富士田裕子編著『サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群―その構造と変化』（B5判・四二〇〇円）生態系劣化が進む湿原・砂丘林帯の形成史・植生・水門環境等を解説し、自然再生の課題を検証。

弘前大学出版会

- ▼郡千寿子・仁平政人編『寺山修司といふ疑問符』（四六判・二八六頁・一八〇〇円）弘前大学教育学部に所属する八名の研究者が、寺山修司について、それぞれの専門の立場（文学、言語学、国語教育、社会学、美術）から新たなアプローチを試みた論集。様々な視点・テーマにもとづく本書の多角的な追及により、寺山修司という「疑問符」の力を甦らせる。
- 
- ▼村田俊一著『T・S・エリオットの思索の断面―F・H・ブラッドリーとニコラウス・クザールヌス』（四六判・二九二頁・四二〇〇円）一九四八年ノーベル文学賞を受賞したイギリスの詩人、T・S・エリオットの文学と哲学の関係。エリオットの思索の断面に流れている「全体」の概念をデカルト以前の中世に見出し、さらには「対立物の一致」で有名な一五世紀ドイツの神秘主義者ニコラウス・クザールヌスまで遡る。

東北大学出版会

- ▼佐藤駿著『フッサールにおける超越論的現象学と世界経験の哲学―「論理学研究」から「イデーン」まで』（A5判・三三八頁・三五〇〇円）志向性理論と意味理論の展開、現象学的方法の理念、そして観念論。フッサールの思索が描き出す「世界経験の哲学」を明らかにする。
- ▼鈴木啓孝著『原敬と陸羯南―明治青年の思想形成と日本ナショナリズム』（A5判・三三四頁・三五〇〇円）南部藩出身の原敬と、津軽藩出身の陸羯南。司法省法学校で同級生として出会った二人の若者は、近代日本を代表する政党政治家、国民主義者となっていく。両者の生涯をとおし、日本ナショナリズムの新たな理解を試みる。
- ▼水野雄司著『本居宣長の思想構造―その変質の諸相』（A5判・二五二頁・三五〇〇円）あるべき「人の心」とは何か。その「心」を手に入れるためには何をどう学ぶべきか。万葉集・新古今・源氏・日本書紀・古事記といった文献にその手がかりを求め、宣長の思想は揺れ動き変化していった。折り重なる思想構造の中に、宣長の新たな全体像を見出す。

流通経済大学出版社

▼鈴木麻里子・前田聡・渡部芳樹著『近代公教育の陥穽―体罰を読み直す』（A5判・二九〇頁・二〇〇〇円）「体罰はいけない！」「いや、体罰も必要だ」「体罰は、いまだ終わりの見えない論争の中にある。ふり返れば私たち誰しもの身近にある体罰。この体罰の日常に、これまで私たちはいかにかかわってきたのか。そして、これからいかにかかわっていくべきなのか。本書は、体罰を「近代教育の陥穽おとしあなとして捉え、そこから再び体罰を「読み直す」道を探る一冊である。ここには体罰をめぐる教育と法（教育行政学・法学・教育哲学）の地平からの多角的な考察とともに、体罰をめぐる新たな地平を切り拓くためのひたむきな対話が取められている。「体罰はいけない」を超えて、私たちは、近代教育の陥穽おとしあなである体罰からいかに抜け出すことができるのか。本書の考察と対話はその道を指し示す道標となるものである。現職の教員の方々、これから教員を目指す学生、スポーツ指導者、そして保護者の方々にも推薦する一冊である。

聖学院大学出版社

▼窪寺俊之編著『希望を支える臨床生観』臨床死生学研究叢書5（A5判・一九六頁・四〇〇〇円）

第1部には、聖学院大学総合研究所の共同研究「臨床死生学研究」での三講演を所収。精神科医の石丸昌彦による「このころの健康とたましいの健康―死生観の回復に向けて」、聖書学者の大貫隆による「われわれの命に再生はあるか―キリスト教の復活信仰をめぐって」、精神科医の関根義夫による「信仰者にとって心の病」である。第2部には、第4巻までの編著者である故平山正実の働きの全体像を明らかにした黒鳥偉作による「平山正実の医療哲学―キャリアという共苦の思想」と、窪寺俊之による「生死観の一考察―岸本英夫と高見順をもとにして」の二論文を所収。医療や福祉の現場で生と死の問題に立ち向かうための総合的な臨床知の共有を目指している。



聖徳大学出版社

▼川並知子・広瀬知里共著『子どもと親のためのおりがみアイデア』（B5判・一二八頁・一五〇〇円）幼児が無理なく折り紙遊びを楽しめる方法や、「折る」だけで、簡単に折り紙を三等分や五分・六等分にできる技法も取り上げた。新たな折り紙の魅力に気づける一冊。



▼川並知子著『さくら紙あそび』（B5判・六四頁・六五〇円）「さくら紙」（おはな紙）の遊び方に構成し、作品の活用例もふんだんに掲載。親子での紙遊びから保育現場での活用など、ぜひ手本としてさくら紙あそびを楽しんで欲しい。



麗澤大学出版会

▼下田健人編・陳玉雄・連宜萍著『中国語で読む経済学』（B5判・一四四頁・二〇〇〇円）中国語学習を通して、経済学の初歩を学ぶことを目的としたテキスト。ミクロ経済学とマクロ経済学に分け、各一五課で構成する。学習者のレベルに応じた基本文と発展文を用意し、より深く学ぶために練習問題を付す。

〈目次〉

微观经济学 经济之科学／需求的形成／收入、价格与需求／需求弹性／供给的形成／供给与成本／机会成本／均衡价格／完全竞争市场／垄断与寡占／博弈论／课垄断性竞争／市场失灵／信息不对称／他宏观经济学 什么是国民收入？／GDP与GNP／GDP与物价／通货膨胀与通货紧缩／发生通货膨胀的后果／失业与通货膨胀的关系／失业的种类／国际贸易与比较优势／加入WTO后的中国经济／他



慶應義塾大学出版会

▼井筒俊彦著『井筒俊彦全集 第九巻 コスモスとアンチコスモス』（四六判・四八八頁・七〇〇〇円）貴重な講演音声CD付。晩年の名著のほか、単行本未収録の珠玉エッセイや読書アンケート収録。

▼ホブズボーム著／木畑洋一ほか訳『**破断の時代**』（四六判・四三二頁・四五〇〇円）二〇世紀を代表する歴史家ホブズボームが一九六四〜二〇一二年の講演を集成した遺作。マルクス主義史観のもと、主に文化という側面から二〇世紀の歴史・文化・人間について語られる。

▼池上彰・大石裕・片山杜秀ほか著『**ジャーナリズムは甦るか**』（四六判・一六八頁・二二〇〇円）原発報道から歴史認識問題までを題材に、報道の二極化、国内政治とメディア、「国益」とジャーナリズム等を含めて徹底討論。

▼ピーター・ピオット著／樽井正義ほか訳『**ノー・タイム・トゥ・ルーズーエボラとエイズと国際政治**』（四六判・五〇〇頁・二七〇〇円）エボラウイルスの発見者にして元UNAIDS事務局長の著者が、「感染症との闘い」を振り返る。

産業能率大学出版部

▼柳原愛史著『**人事能力のイノベーション5原則―人事の基本は【あ・し・た・こ・そ】**』（A5判・二〇〇〇円）。

【あしたこそ】とは、「あ・愛情の原則し・至人の原則（志）た・鍛錬の原則こ・公正の原則そ・創造の原則」のことです。本書では、人事部を取り巻く劇的な環境変化を把握し、それに伴う人事制度上の重要課題を提示していますが、これらの重要課題を確実に解決していくために人事部に所属するメンバーとして必要不可欠なものは、各人の優れた能力です。本書ではこれらの能力を「人事能力」と定義しています。

▼学校法人産業能率大学総合研究所経営管理研究所 人事研究センター編著『**人事制度活用の『勘どころ』―目標による管理・人事評価はうまくできていますか？**』（A5判・二〇〇〇円）

職場マネージャー・人事スタッフ必携の本書は、組織後見に向けて人事制度活用の重要性を提言していきます。管理職による人事制度の活用ポイントを実務に即しながら解説し、わかりやすい事例を交えて学びます。

専修大学出版局

▼高嶋陽子著『武力紛争における国際人権法と国際人道法の交錯』（A5判・三〇四頁・三二〇〇円）内戦や対テロ戦争が多発する中で、国際司法の場でも国際人権法と国際人道法の適用について議論されている。本書は理論・規定構造等から再検討し、法的基礎の観点から多角的に捉えなおしている。

▼楊陽著『変化する中国の小売業—小売業態の発展プロセス』（A5判・二〇八頁・二四〇〇円）経済発展が続く中国の小売業の業態多様化に焦点を当て、事例研究も含めてその発展メカニズムを検討・解析する。また消費需要の変化や行政介入の変遷、外資系や国内企業の現状と展開を考察する。

▼宮崎晃臣・兵頭淳史編『専修大学社会科学研究所 社会科学研究叢書17 ワークフェアの日本的展開—雇用の不安定化と就労・自立支援の課題』（A5判・二七二頁・二四〇〇円）近年の政策動向である「福祉から就労へ（ワークフェア）」に焦点を当て、地方自治体による就労機会の創出、生活支援プログラムなどを調査・研究した共同研究の結実である。

大正大学出版会

【近日刊行予定】

▼大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ 仏教の基礎』①インド編/②中国・日本編（A5判・三一六頁/三一三頁・各一五〇〇円）

本書は、設立母体に天台宗・真言宗豊山派・真言宗智山派・浄土宗の四宗派をもつ大正大学の仏教学科が、仏教全般の思想・歴史を通仏教の視点から著したものである。一篇「釈尊伝と初期仏教」、二篇「大乘仏教」、三篇「アジア仏教」、四篇「日本仏教」からなり、各篇三〇項目に加え、三〇のコラムが配されている。難解な教義や歴史情勢、あるいは地理

促す補助として図表や地図を活用している。また、視覚的な理解を助ける仏像や仏教遺跡、あるいは祖師像や仏教美術等の画像は、大正大学所蔵品を中心に掲載している。

本書の執筆陣は老手から若手までおよそ五〇人に及び、平成二八年に開校九〇周年を迎える大正大学の総力を結集した一冊だといえる。初学者はもちろん、すでに仏教を学んだ者にも必携の書である。

玉川大学出版部

▼佐久間裕之編著『教育原理』（教職専門シリーズ）（A5判・二六四頁・二四〇〇円）教育の理念、歴史・思想を扱うテキスト。人に教えられる人に教える、学習し教育するという過程を概説し、教育とはいかなるものか、いかにあるべきかの根本的な問題について考える。

▼『教科力シリーズ』（全九巻・A5判・各一八〇〜二三四頁・各二四〇〇円）小学校各教科の内容構成を具体的に解説し、現場での実践力の基礎を養う。教員志望者、現職教員の教科研究の手引き書として参考になるシリーズ。学習指導要領平成二〇年改訂に対応。各教科の「内容」と「指導法」の橋渡しをする。

松本修編著『小学校国語』
寺本潔編著『小学校社会』
守屋誠司編著『小学校算数』
梅沢一彦編著『小学校音楽』
池崎喜美恵編著『小学校家庭』
高島二郎・川崎登志喜編著『小学校体育』

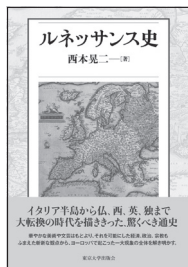
【続刊予定】
石井恭子編著『小学校理科』
寺本潔編著『小学校生活』
高橋愛編著『小学校図画工作』

中央大学出版部

- ▼原子力技術史研究会編『福島原子力事故に至る原子力開発史』(二二〇〇円)
福島原発の過酷事故に至る日本の原子力開発の歴史を各界の専門家が、それぞれの立場から問題を解明。今後の原子力力行く末を考える視座を提供する。
- ▼イ・ヒョンナン著『植民地朝鮮の米と日本—米穀検査制度の展開過程』(三五〇〇円)
朝鮮の米は、日本の市場に統合される過程で精錬され商品としての質を高めていき、やがて市場を逆規定するに至る。そのことに大きく寄与したのが、総督府にも後押しされた米穀検査制度であった。本書は、膨大な資料に支えられた植民地化朝鮮米の興亡史である。
- ▼片桐絵晴著『F・リスト研究—自治・分権思想と経済学』(五五〇〇円)
新たな青年リスト像を「導きの糸」として従来のリスト像を見直し、「自治・分権思想と経済学」の関連を解き明かす。
- ▼椎橋隆幸編著『日韓の刑事司法上の重要課題』(二二〇〇円)
国民の司法参加、取調べの可視化、検察改革。日本と韓国の刑事司法がともに直面している課題について、理論と実務の両面から迫る。

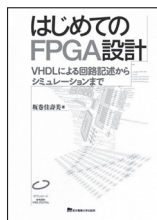
東京大学出版会

- ▼西本晃二著『ルネッサンス史』(A5判・六五六頁・一二〇〇〇円)
ルネッサンスは大転換の時代であった。その影響は文芸や美術に限らず、技術、産業、金融、行政、戦争、あるいは人口動態にいたるまで、社会のあらゆる局面に及んだ。十三世紀から十六世紀にかけてイタリア半島で始まったルネッサンスは、その後フランス、スペイン、イングランド、ドイツでも展開され、近代の基礎を築いていく。ヨーロッパで起こった一大現象の全体をめぐって、経済、政治、宗教もふまえた斬新な観点で描き切った、驚くべき通史。
- 推薦—岩倉具忠・京都大学名誉教授／樺山紘一・印刷博物館館長(東京大学名誉教授)／ジョルジュ・アマトラノ・イタリア文化会館東京館長／遠山敦子・元文部科学大臣。



東京電機大学出版局

- ▼坂巻佳壽美著『はじめてのFPGA設計—VHDLによる回路記述からシミュレーションまで』(B5判・二四八頁・三六〇〇円)
FPGAは、書いては消せる黒板のように、回路を何度でも自由に書き換えることができるデバイスである。一般的に回路を設計する際は、用途に合わせた機能をもったデバイスを選択する。しかしFPGAは、自分の希望する機能をプログラミングして、回路データとしてデバイスに書き込むことができる。書き換えることで別の用途にも利用することができ、手軽にその場でハードウェアである回路構成などを自由に変更できる。本書では、VHDLというプログラミング言語を用いたデジタル回路設計、設計した回路の動作検証を具体的な事例を基に詳解。読み進めるうちにFPGA設計ができるよう、初学者向けに解説している。



法政大学出版局

- ▼植村和代『織物』（四六判・三四六頁・三二〇〇円）織物は一万年以上前に発明された人類初の機械を用いた製品だった。機織り技術とともに衣文化はどのように変遷したのか、織機の創意・工夫の歴史を豊富な図版を示しながら解き明かす。
- ▼J・ワン／廣瀬玲子訳『石の物語』（A5判・四五八頁・四八〇〇円）『紅楼夢』『水滸伝』『西遊記』—すべての物語は石から始まる。（もの言わぬ）石が時をこえて協奏し、創造する豊穡な世界とは。
- ▼S・ボーヴェンシエン／渡邊洋子＋田邊玲子訳『イメージとしての女性』（四六判・四三八頁・四八〇〇円）近現代の文学・哲学・社会学に現れる男性により規定された「女性的なるもの」をめぐる言説を分析し、果敢な論争の姿勢をもって歴史における女性の不在を追及する。
- ▼E・ラクラウ／山本圭訳『現代革命の新たな考察』（四六判・四〇六頁・四二〇〇円）「敵対性」「転位」「偶発性」「ヘゲモニー」等、重要概念を理論的に定式化し、ポスト・マルクス主義からラディカル・デモクラシーに至る射程で新しい民主主義のための政治理論を創造する。

武蔵野大学出版会

- ▼五味政信著『五味版学習者用ベトナム語辞典』（B6・一四四頁・八〇〇円）見出し語八〇〇〇、用例二一〇〇〇。語法、成句、コラムも充実し、文型が自然に身につくように構成されている。学習を進める際に必要な情報、知りたい情報が紹介された、学習者のための辞書。
- ▼浅川公紀著『国際政治の構造と展開』（四六判・四七二頁・三三〇〇円）国際政治システムの生成から展開、冷戦時代、冷戦後の秩序、外交政策の形成と実施、安全保障の追及など、国際政治のすべてがこの一冊に集約されている。
- ▼佐藤佳弘著『脱！スマホのトラブル—LINEフェイスブックツイッターやつて良いこと悪いこと』（四六判・一六〇頁・一二五〇円）小中高校で「スマホの危険」や「正しい使い方」について数多く講演をしている著者が、トラブルの事例と対策を豊富なイラストで解説。



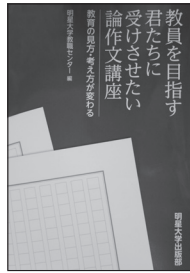
武蔵野美術大学出版局

- ▼白尾隆太郎監修『Graphic elements グラフィックデザインの基本課題』（B5判変型・四色刷二〇八頁・三二〇〇円）色彩、形の認識（ピクトグラム）、カテゴリーイズ（編集）、写真、広告、タイポグラフィ、ダイアグラム。それぞれのテーマとその複合による八つのエレメントを通して、デザインの使命とスキルを学ぶ。エレメントごとに課題を付し、なぜこの課題に取り組むのか、何が求められているのか、じっくりと《手で思考する》ムサビ通信、デザイン教育の集大成。デザインを学ぶ人、教える人、両者の「教科書」となり得る画期的な指南書。
- ▼新見隆編／新見隆＋金子伸二十杉浦幸子著『ミュゼオロジーへの招待』（A5判・二七二頁・二一〇〇円）本年四月開館の大分県立美術館初代館長となり、立ち上げの陣頭で奔走する編者。そのミュージアム愛溢れる現場からの声を中心に、ミュージアムの歴史や法律、制度などの基本的な理念に迫る。ミュゼオロジーへの扉をひらく一冊。二十一世紀にあるべき、万人のためのミュージアム像とは？

明星大学出版部

▼明星大学教職センター編『教員を目指す君たちに受けさせたい論文講座 教育の見方・考え方が変わる』(A5判・一六〇〇円)

教員採用試験の論文攻略技術及び方策を実践的に示す指南書。採点者の評価の視点はどこにあるか、実際の出題例に即して留意点を考え、試験の対策事例も示している。



▼青木秀雄著『教育学—人間科学からの展望』【人間性と人間形成の教育学第2版】(A5判・二八〇〇円)

教育現象の根源的な本質を問いつつ学問としての教育学を探究する。

▼青木秀雄編『教職入門 専門性の探究・実践力の練成』(A5判・一六〇〇円)

関東学院大学出版会

▼FD研究プロジェクト編『大学生の教科書—初年次からのスタディ・スキル』(A5判・一六〇頁・二二〇〇円)本書は、

高校と大学の違い、ノートやレポートの書き方、試験対策など大学での学びに役立つ学習法は勿論、ゼミ、プレゼンといった主体的な学びの方法、四年間の目標設定までを豊富な具体例で紹介する大学新人生必読の実践テキストである。

〈目次〉大学ってどんなところ? / 授業を受ける / キャンパスライフを楽しもう / ノートをうまく書こう / 図書館に行ってみよう / レポートはこれで大丈夫 / 試験対策をしなくっちゃ / ゼミ発表をする / グループでプレゼンする / デイバートで論理力を高める / 学生生活の目標をたてよう



東海大学出版部

▼荒俣宏編著『日本まんが』(全三巻・A5判・各巻三五〇〇円)荒俣宏のインタビューにより、これまで公にされていなかった漫画史の事実や創作秘話が明らかにされる。また、漫画史研究者清水勲とも対談(第巻)。江戸時代から約三百年に及ぶ歴史的視野のもと現在の日本まんがの由来とその発展をたどる。

第壹巻 「先駆者」たちの挑戦(二二六頁)

清水勲 / やなせたかし / ちばてつや / 水野英子 / 水木しげる

第貳巻 男が燃えた! 泣いた! 笑った! (三八六頁) さいとう・たかを / 松本零士 / 平田弘史 / バロン吉元 / みなもと太郎

第参巻 きらめく少女の瞳(三四二頁)

里中満智子 / 竹宮恵子 / 萩尾望都 / 高橋真琴 / 楳図かずお



名古屋大学出版会

- ▼長尾伸一著『複数世界の思想史』（A5判・三六八頁・五五〇〇円）人間知性の歴史において様々な形で展開してきた「世界の複数性」論——。天文学的複数性論を軸にその水脈をたどり、自己中心性が駆動する「近代」を鋭く問い直す。
- ▼岡本隆司編『宗主権の世界史—東西アジアの近代と翻訳概念』（A5判・四一二頁・五八〇〇円）「宗主権」とは何か。この不可思議な概念の背後に、東西を通じた歴史の大転換を読み解くことで、現代までつづく国際秩序の形成過程を解明した画期的著作。
- ▼林載桓著『人民解放軍と中国政治—文化大革命から鄧小平へ』（A5判・二五四頁・五五〇〇円）文化大革命への解放軍の介入はいかにして起こり、その後の中国政治に何をもたらしたのか。改革開放に向けた知られざる道筋を示す。
- ▼近藤則夫著『現代インド政治—多様性の中の民主主義』（A5判・六〇八頁・七二〇〇円）経済成長と並ぶもう一つの驚異。独立から現在までの民主主義体制の構造変化を軸に、巨大で複雑な全体像を、見通しよく描いた待望の著作。

三重大学出版会

- ▼内田淳正著『六十歳からの成長—禿髭学長の通信より』（A5判、二九二頁、一四九〇円）
- 1章、変革する大学／2章、自己変容型知性を目指して／3章、式辞／4章、明るい未来／5章、高齢社会、男女共同参画／6章、病との戦い／7章、何とかなるさ／8章、訪問記／あとがき
- 自称「禿髭学長」は突然、彗星のように三重大学内に登場し、別格の叡智・洞察・熱意を残して学内を立ち去った。三重大学カレールからエコバック、再生紙トイレットペーパー、放置自転車の再生利用まで、学生と共に行動し、日本一の環境先進大学を実現した。「禿髭学長」は表現を重んじ、一際熱心に、自己や大学の目を覚まさせた。一人の医師でもある禿髭学長は病氣やそれに伴う困難にも敏感なタッチで共感を語り続けた。最初こそ堅苦しかった「禿髭学長」の言葉は、時と共に自在さを増し、その真心あふれる珠玉の言の葉が読者の心を揺さぶって止まないものになった。その言葉を記録に留めるために本書は編集された。

京都大学学術出版会

- ▼阿部拓児著『ペルシア帝国と小アジア—ヘレニズム以前の社会と文化』（A5判・三三〇頁・四八〇〇円）古代ペルシアに関連する現存のギリシア語史料に含まれるペルシア人蔑視のバイアスを払拭、碑文史料も援用しつつ、当時の社会と文化の実相にせまる。
- ▼菅原和孝著『狩り狩られる経験の現象学—ブッシュマンの感応と変身』（A5判・四八〇頁・四六〇〇円）自然保護や動物倫理が叫ばれる一方、実生活ではペット以外の動物の存在が悉く隠蔽される現代社会。「人間／動物関係」が切実に問われる今、野生動物と生死をかけた濃密な関係を築いてきた狩猟民の語りは新鮮な驚きをもたらす。動物を恐れ、笑い、感応する独特の動物観を描く。
- ▼田口紀子編『大学からの外国語—多文化世界を生きるための複言語学習』（A5判・二七〇頁・二五〇〇円）八つの言語の専門家が、語学を持つ豊かな可能性を今一度語り直す。初学者が躓く最初の第一歩から、探求の果てに辿りつく文化の内奥まで読者を一気に誘う、大学で学ぶ外国語の魅力を知るための入門書。

大阪経済法科大学出版部

▼『北東アジアの平和構築―緊張緩和と信頼構築のロードマップ』（四月刊、二五〇〇円予定）

【目次】第一部 北東アジア情勢と平和構築の課題／第一章 北東アジアの構造変容と日本外交（豊下梢彦）／第二章 北東アジアの平和構築（魏栢良）／第三章 最近の北東アジア情勢の変化と新たな韓日間の平和構築（林承彬）／第四章 朝鮮半島から見た日米同盟（康宗憲）／第五章 米軍普天間基地「移設」問題に関する「安全保障」を利用したプロパガンダ（大城尚子）・第二部 平和と安全保障における自衛権論の検討／第六章 集団的自衛権と永世中立について（澤野義一）／第七章 核兵器使用と自衛権（糟谷英之）・第三部 市民による平和と人権の推進／第八章 信頼醸成のためのアクターとしての市民社会のネットワーク（梅田章二）／第九章 ソフトパワーとしての平和実践トレーニング（奥本京子）／第十章 ドイツ・ポーランド関係に見る歴史和解と信頼構築（木戸衛一）／第十一章 日本社会におけるヘイト・クライムに関する最近事例の検討（元百八子）

大阪大学出版会

▼舟場保之・御子柴善之監訳『人権への権利―人権・民主主義そして国際政治』（三七〇〇円）改めて希求されている人権概念に関するハーバースらの哲学的論考を翻訳。現代の諸問題との関連を整理した解題付。▼日比孝之原作・門田英子漫画『証明の探究 高校編I』（一三〇〇円）文系向け教養数学書『証明の探究』をコミック化。淡い恋話の中にハツとする数学が見つかる。歴史に残る証明問題も掲載。▼塩谷茂樹編訳・著 思沁夫絵・コラム『モンゴルのことばとなぜなぜ話』（一六〇〇円）モンゴルに伝わるお話を翻訳した児童書。文化や言語の成り立ちも紹介。▼土岐博・兼松泰男著『理系の言葉―微量の魅力』（一四〇〇円）理系と文系の壁となる数式を、微量を捉えて超える。大阪大学超域イノベーション博士課程プログラムの本。▼足立泰美著『保健・医療・介護における財源と給付の経済学』（五六〇〇円）より多くの需要者が公平に高い質と適切な量の社会保障給付を受け続けるために、財政面とサービス提供面からのアプローチで家計との関係も視野に検討する。

関西大学出版部

▼高明均著『馬經諺解―語彙研究―十七世紀近代朝鮮語の語彙の宝庫』（A5判・三〇〇〇円）本書は、十七世紀における近代朝鮮語の文獻『馬經諺解』（マギョンオネ）の語彙に対する研究である。漢字の対訳語と相応する諺解部分を例文とともに抜粋し、漢字語を音節別に分けて整理した。

▼関西大学経済史研究会編『経済発展と交通・通信』（A5判・二五〇〇円）本書は、グローバル経済史の研究を志す専門家のための論文集である。新世紀に入り、難題を伴いながらも新たな展開を示しつつあるグローバル経済を解明する本格的な専門書として、社会人や学生必読の一書である。

▼小幡斉著『なぜビタミンCは健康にいいのか』（A5判・一八〇〇円）一般の動物はビタミンCを合成するが、人と猿は合成できないため、ビタミンCが不足すると免疫力低下により老化が早まり、病気になる。本書では、高濃度ビタミンC摂取の継続で美容効果や抗老化作用、様々な病気の予防と治療に効果を発揮することを紹介する。

関西学院大学出版会

- ▼藤井美和著『死生学とOOL』（A5判・二三八頁・三二〇〇円）
- ▼三原博光監修／新井康友・原田由美子編著『超高齢社会における高齢者介護支援』（A5判・二二三頁・二〇〇〇円）
- ▼富田宏治著『丸山眞男―「古層論」の射程』（A5判・三五〇頁・四四〇〇円）
- ▼岡本仁宏編著『市民社会セクターの可能性―110年ぶりの大改革の成果と課題』（A5判・二五二頁・二二〇〇円）
- ▼蜂谷俊隆著『糸賀一雄の研究―人と思想をめぐって』（A5判・三一六頁・四二〇〇円）
- ▼中西正雄・石淵順也・井上哲浩・鶴坂貴恵編著『小売マーケティング研究のニューフロンティア』（A5判・三〇八頁・三四〇〇円）
- ▼村上博一著『相続法実務入門』（A5判・三七八頁・三〇〇〇円）
- ▼関西学院大学教務機構高等教育推進センター編『学生たちの日々1976―2010―関西学院大学カレッジ・コミュニティ調査から』（A5判・二〇八頁・一九〇〇円）

広島大学出版会

- ▼木下正俊著『わが国の金融システム改革と法制整備』（A5判・四〇九頁・三四〇〇円、四月上旬刊行予定）
- 「日本版ビッグバン」と「平成金融危機」。わが国は一九九〇年代後半以降、戦後金融体制を象徴する「護送船団方式」からの転換とバブル崩壊に伴う銀行不良債権問題の解決を中心とする金融システム改革を推進してきた。そして私たちは今どのような地平に立っているのだろうか。わが国の金融システム改革を金融の効率化・高度化・融合化・安定化の観点から多面的に捉え、改革を実現する法的インフラ整備の取組みを検証した渾身の書。
- 主要目次**
- 第一部 先端金融の推進と法制整備／資産流動化・証券化の推進／シンジケート・ローン市場の発展／金融業務の融合化の推進
- 第二部 金融機関の経営破綻とセーフティ・ネットの整備／金融機関の健全経営確保のための規制・監督／バブル融資と銀行取締役の責任／銀行の守秘義務と情報開示／金融取引と利用者保護／ノンバンク市場の改革

九州大学出版会

- ▼藤井哲編著『福原麟太郎著作目録』（A4判・一二〇〇〇円）
- ▼佐野隆弥『エリザベス朝史劇と国家表象―演劇はイングリランドをどう描いたか』（A5判・五八〇〇円）
- ▼秦洋二『九州大学人文学叢書7 日本の出版物流通システム―取次と書店の関係から読み解く』（A5判・三七〇〇円）
- ▼辛島正雄『九州大学人文学叢書8 御津の浜松一言抄―浜松中納言物語』を最終巻から読み解く』（A5判・三二六〇〇円）
- ▼望月俊孝『物にして言葉―カントの世界反転光学』（A5判・七四〇〇円）
- ▼宮本一夫編『遼東半島上馬石貝塚の研究』（B5判・八〇〇〇円）
- ▼小川浩昭『保険学における一般性と特殊性』（A5判・六〇〇〇円）
- ▼熊本県立大学総合管理学会編『総合知の地平―熊本県立大学総合管理学部創立20周年記念論文集』（A5判・四四〇〇円）
- ▼秋枝蕭子語り／森邦昭・鈴木有美編『後に続く女性たちへ―秋枝蕭子・福岡女子大学名誉教授からのメッセージ』（四六判・一八〇〇円）

一般社団法人 大学出版部協会 賛助会員名簿

【50音順】2015年3月31日現在

(株)朝日新聞社	〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2	TEL 03-5540-7749
垂細垂印刷(株)	〒380-0804 長野県長野市大字三輪荒屋1154	TEL 026-243-4858
(株)アペル社	〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館408	TEL 03-3235-1360
尼崎印刷(株)	〒661-0975 兵庫県尼崎市下坂部3-9-20	TEL 06-6494-1122
(株)ALE	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-8-6 日本橋ビル4階	TEL 03-5652-8627
王子製紙(株)	〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5	TEL 03-3563-7072
岡本出版発送(株)	〒353-0001 埼玉県志木市上宗岡3-16-2	TEL 048-471-6291
カタマス・コミュニケーションズ(株)	〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル10階	TEL 03-5542-1950
(株)加藤文明社印刷所	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-6-9 NEX水道橋ビル	TEL 03-3261-8281
城島印刷(株)	〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2-9-6	TEL 092-531-7102
(株)紀伊國屋書店	〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10	TEL 03-6910-0510
(株)クイックス	〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-13 ニュー原鉄ビル5F	TEL 03-3221-9150
(株)糸川印刷	〒112-0012 東京都文京区大塚6-9-7	TEL 03-3943-9811
港北出版印刷(株)	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-7-7	TEL 03-5466-2201
三松堂印刷(株)	〒101-0065 東京都千代田区西神田3-2-1 住友不動産千代田ファーストビル南館4階	TEL 03-6823-5360
三美印刷(株)	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-9-8	TEL 03-3803-3131
三立工芸(株)	〒101-0061 東京都千代田区三崎町3-2-10 寺西ビル3F	TEL 03-3261-5171
三和印刷(株)	〒381-2226 長野県長野市川中島町今井薬師堂1822-1	TEL 026-285-2300
信濃印刷(株)	〒102-0002 東京都千代田区飯田橋4-1-11	TEL 03-3237-3601
(株)渋谷文泉閣	〒380-0804 長野県長野市三輪荒屋1196-7	TEL 026-244-7185
(株)眞興社	〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町19-2	TEL 03-3462-1181
新日本印刷(株)	〒162-0801 東京都新宿区山吹町342	TEL 03-3269-3611
創栄図書印刷(株)	〒604-0812 京都府京都市中京区高倉通二条上ル天守町766	TEL 075-255-2288
大同印刷(株)	〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20	TEL 0952-71-8550
ダイニック(株)	〒105-0004 東京都港区新橋6-17-19 御成門ビル	TEL 03-5402-1811
(株)太平印刷社	〒140-0002 東京都品川区東品川1-6-16	TEL 03-3474-2821
(株)太平洋社	〒501-0431 岐阜県本巣郡北方町北方148-1	TEL 058-324-2111
寶紙業(株)	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-7-14	TEL 03-3261-5335
(株)竹尾	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-12-6	TEL 03-3292-3617
宗教法人天然寺	〒204-0021 東京都清瀬市元町1-4-5-711	TEL 0424-92-4359
(株)東京弘報社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34	TEL 03-3291-1771
(株)とうこう・あい	〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-11	TEL 03-3571-6000
東光整版印刷(株)	〒135-0006 東京都江東区常磐2-12-15	TEL 03-3632-0801
(株)トーヨー企画	〒602-0923 京都府京都市上京区油小路通中上売ル 油橋詰町93-7	TEL 075-411-8288
図書印刷(株)	〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36	TEL 03-5843-9700
(株)日本経済新聞社	〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7	TEL 03-5255-2198
萩原印刷(株)	〒112-0004 東京都文京区後楽2-21-12	TEL 03-3811-4272
(株)博報堂	〒107-6322 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー19F	TEL 03-6441-6711
藤原印刷(株)	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5	TEL 03-3291-0191
(株)平文社	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-35-7	TEL 03-3944-0301
(株)堀内印刷所	〒335-0034 埼玉県戸田市笹目3-11-5	TEL 048-422-0029
(株)毎日新聞社	〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1	TEL 03-3212-3340
誠製本(株)	〒174-0042 東京都板橋区東坂下1-19-5	TEL 03-3967-3952
(株)遊文舎	〒532-0012 大阪府大阪市淀川区木川東4-17-31	TEL 06-6304-9325
(株)読売新聞東京本社	〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1	TEL 03-3242-1111
(株)ライトコミュニケーション	〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町11 岩田ビル5F	TEL 03-3251-7571
渡辺印刷(株)	〒152-0031 東京都目黒区中根2-7-1	TEL 03-3718-2161

一般社団法人大学出版部協会は、私たちの活動をご理解・ご支援下さる皆様による「賛助会員」制度を設けています。ここに趣旨にご賛同下さり、ご支援頂いている各社様をご紹介します。なお「賛助会員」に関するお問い合わせは協会事務局までお寄せ下さい。

書店で本が見つけれない…そんなときは!



全国書店
ネットワーク

いーほん

検索

-hon <http://www.e-hon.ne.jp>



ネットで注文して、お近くの本屋さんで受け取れます。



**入会金・年会費
無料**

会員登録後、すぐ注文が可能となります



在庫100万点

専門書からテキストまで、充実のラインナップ。卸会社運営サイトならではの圧倒的な在庫量



**書店受取なら
送料手数料無料**

書店での受け取りは、冊数・金額に関係なく送料は完全無料



**プライバシー厳守の
完全個別梱包**

中身を人に知られない、安心の個別梱包でお届けします



**さまざまなデバイス
から注文が可能**

PCはもちろん、スマートフォン、携帯電話から注文が可能



**新刊・新譜の
予約も充実**

書籍の新刊、CD・DVDの新譜も毎日更新してご案内します



**宅配利用で
ポイント還元**

宅配でのご購入は、100円につき1ptポイントが付きます



**雑誌バックナンバー
も充実**

NHK テキストから学術雑誌のバックナンバーも充実



**メールサービスで
タイムリーな情報を配信**

メールニュースより、新刊情報やフェア情報などをお知らせします



**好きなジャンルの
新刊をメールで通知**

新刊パトロール機能により、お気に入りの作家やジャンルの新刊情報を配信



**医療系電子コンテンツ
はDigital e-hon**

姉妹サイト「Digital e-hon」は、文芸書から医学文献まで充実の品揃え



**お気に入り登録で
好きなときに注文可能**

気になる商品はクリック1つで簡単登録。注文する際に便利です

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町 6-24 株式会社トーハン

「東アジア的教師」の今

東アジア教員養成国際共同研究プロジェクト 編

似ているようで似ておらず、似ていないように似ている東アジア諸国の文化と社会。はたして「東アジア的教師」というものはいるのだろうか。日本、中国、韓国、台湾という東アジア諸国・地域の、それぞれの学校教員の養成法を比較するための本。

A5判 256頁 2400円＋税

分子生物学者、
小学校長になる!

—朝礼と学校だよりで伝えたかったこと

飯田秀利 著

分子生物学者が東京学芸大学附属小金井小学校の校長となった4年間、毎週の朝礼でのお話をまとめたものです。身近な話題を用いながら、子どもたちに人間の本質や科学的に考えることの楽しさについて、わかりやすく語りかけています。

四六判 184頁 1200円＋税

GIP

[TEL] 042-329-7797 [FAX] 042-329-7798
[HP] <http://www.u-gakugetai.ac.jp/press>

環境法案内

坂口洋一 著
本体2500円＋税

環境問題の解決に必要な知識と、能力を育成するための「環境法」入門書。様々な領域にまたがる環境法を、体系的に整理。持続可能な社会の実現を目指す。

〔上智大学新書006〕

北米研究入門

—「ナシヨナル」を問い直す

上智大学アメリカ・カナダ研究所編 本体1040円＋税
アメリカ合衆国とカナダを、内境という境界を越えた一つの地域として捉え、その内外の比較・交流・関係性から新たな視点で北米を「物語る」本邦初の試み。

〈発行〉Sophia University Press 上智大学出版
<http://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/publication/SUP>

〈発売・注文〉〒136-8575東京都江東区新木場1-18-11
ぎょうせい TEL:0120-953-431 FAX:0120-953-495

山形大学出版会

なせば成る! 改訂版

—大学で学ぶ新入生のテキスト—
山形大学基盤教育院 編 800円＋税

なさねば成らぬ!

—初年次教育の教員用テキスト—
山形大学基盤教育院 編 800円＋税

社会人基礎力をみがく

—なせば成る!の使いこなしテキスト—
山形大学基盤教育院研究部 編 800円＋税大学生の規範意識と
社会性の発達—なぜ学生は問題を起こしたか—
小倉泰憲 編著 1,000円＋税

〒990-8560 山形県山形市小白川町1-4-12
TEL:023-628-4840 FAX:023-628-4051
<http://www.yamagata-u.ac.jp/books/>

金沢医科大学出版局

発売 = 紀伊国屋書店 ☎03-3354-0131(代)

6日間で学ぶ 医学生・初期研修医のための
呼吸器外科画像問題集

佐川 元保 編集

国家試験レベルの画像読影力を短期間で獲得できる構成となっている。「問題と解答・解説」形式を主とし、繰り返し学習することで成果をあげる。

A4判, 140頁, 定価: 本体2,000円＋税

解剖学者がみた

ミケランジェロ

篠原 治道 著

苛酷な幼児体験で「傷ついた脳」が天才ミケランジェロを生み出した。人体構造のプロフェッショナルが彼の彫刻に秘められた真実に迫る。

A5判, 273頁, 定価: 本体1,800円＋税

金沢医科大学出版局

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
☎076-286-2211(代) <http://www.kanazawa-med.ac.jp>



表紙写真：第1回ニコニコ学会βシンポジウム@ニコファーレ

大学出版102号(2015年春)
2015年4月1日発行
頒価100円(千共)

発行所：一般社団法人 大学出版部協会
ISSN 0913-3305
振替00170-8-389131

〒102-0073
東京都千代田区九段北1丁目14番13号
メゾン萬六403号室
TEL 03-3511-2091 FAX 03-3511-2092
E-mail : mail@ajup-net.com
URL : http://www.ajup-net.com/

表紙デザイン：阿部卓也

一般社団法人 大学出版部協会 加盟出版部一覽

■ 北海道大学出版会

〒060-0809 札幌市北区北9条西8丁目
北海道大学構内
TEL 011-747-2308 FAX 011-736-8605

■ 弘前大学出版会

〒036-8560 弘前市文京町1番地
弘前大学附属図書館内
TEL 0172-39-3168 FAX 0172-39-3171

■ 東北大学出版会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学構内
TEL 022-214-2777 FAX 022-214-2778

■ 流通経済大学出版会

〒301-8555 龍ヶ崎市平畑120
TEL 0297-60-1167 FAX 0297-60-1165

■ 聖学院大学出版会

〒362-8585 上尾市戸崎1-1
TEL 048-725-9801 FAX 048-725-0324

■ 聖徳大学出版会

〒271-8555 松戸市岩瀬550
TEL 047-365-1111 FAX 047-363-1401

■ 麗澤大学出版会

〒277-8686 柏市光ヶ丘2-1-1
TEL 04-7173-3320 FAX 04-7173-3154

■ 慶應義塾大学出版会

〒108-8346 港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3168 FAX 03-3451-3124

■ 産業能率大学出版部

〒100-0005 千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー9階
TEL 03-6266-2400 FAX 03-3211-1400

■ 専修大学出版局

〒101-0051 千代田区神田神保町3-8
TEL 03-3263-4230 FAX 03-3263-4288

■ 大正大学出版会

〒170-8470 豊島区西巣鴨3-20-1
TEL 03-3918-7311 FAX 03-5394-3038

■ 玉川大学出版部

〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
TEL 042-739-8935 FAX 042-739-8940

■ 中央大学出版部

〒192-0393 八王子市東中野742-1
TEL 042-674-2351 FAX 042-674-2354

■ 東京大学出版会

〒153-0041 目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991

■ 東京電機大学出版局

〒101-0047 千代田区内神田1-14-8
TEL 03-5280-3433 FAX 03-5280-3563

■ 法政大学出版局

〒102-0073 千代田区九段北3-2-3
法政大学九段校舎1F
TEL 03-5214-5540 FAX 03-5214-5542

■ 武蔵野大学出版会

〒202-8585 西東京市新町1-1-20
武蔵野大学構内
TEL 042-468-3003 FAX 042-468-3004

■ 武蔵野美術大学出版局

〒180-8566 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7
TEL 0422-23-0810 FAX 0422-22-8309

■ 明星大学出版部

〒191-8506 日野市程久保2-1-1
TEL 042-591-9979 FAX 042-593-0192

■ 関東学院大学出版会

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL 045-786-5906 FAX 045-786-2932

■ 東海大学出版部

〒257-0003 秦野市南矢名3-10-35
東海大学同窓会館3階
TEL 0463-79-3921 FAX 0463-69-5087

■ 名古屋大学出版会

〒464-0814 名古屋市千種区不老町1
名古屋大学構内
TEL 052-781-5027 FAX 052-781-0697

■ 三重大学出版会

〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学附属病院5階
TEL 059-232-1356 FAX 059-232-1356

■ 京都大学学術出版会

〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町69
京都大学吉田南構内
TEL 075-761-6182 FAX 075-761-6190

■ 大阪経済法科大学出版部

〒581-8511 八尾市楽音寺6-10
TEL 072-941-9129 FAX 072-941-9979

■ 大阪大学出版会

〒565-0871 吹田市山田丘2-7
大阪大学ウエストフロント
TEL 06-6877-1614 FAX 06-6877-1617

■ 関西大学出版部

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-0238 FAX 06-6389-5162

■ 関西学院大学出版会

〒662-0891 西宮市上ヶ原一番町1-155
TEL 0798-53-7002 FAX 0798-53-9592

■ 広島大学出版会

〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2
TEL 082-424-6226 FAX 082-424-6211

■ 九州大学出版会

〒812-0053 福岡市東区箱崎7-1-146
九州大学構内
TEL 092-641-0515 FAX 092-641-0172

■ 東京農業大学出版会(体会)

〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL 03-5477-2666 FAX 03-5477-2747